

# 畜産事業計画概要

令和4年度

茨城県農林水産部畜産課

# 目 次

畜産関係組織表	1
令和4年度当初予算総括表	3
令和4年度畜産施策方針と重点施策	4
令和4年度畜産施策体系	7
令和4年度事業計画	
1 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策	12
2 家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産	26
3 環境にやさしい資源循環型畜産の実現	42
4 試験研究の推進と畜産技術の普及促進	45

## 畜産関係組織表

農林水産部畜産課 (県庁代表) 029-301-1111	
課長	(3970)
副参事	(3975)
技佐(畜産振興)	(3971)
技佐(家畜防疫対策)	(3972)
総括(事務)	(3973)
総括(技術)	(3974)
○畜政(3987)	(直)029-301-3982
○経営環境(3985, 3986, 3988, 3977)	(直)029-301-3988 (直)029-301-3977
○家畜衛生・安全(3980, 3981, 3982, 3983)	(直)029-301-3982
○生産振興(3990, 3991, 3992, 3993)	(直)029-301-3993
畜産課FAX 029-301-3999	

		位置	管轄区域
県北家畜保健衛生所 TEL 029-225-3241 FAX 029-224-6661	防疫指導第一課 衛生鑑定第二課 病性鑑定第二課	水戸市	水戸市, 日立市, 常陸太田市, 高萩市, 北茨城市, 笠間市, ひたちなか市, 常陸大宮市, 那珂市, 小美玉市, 東茨城郡, 那珂郡, 久慈郡
鹿行家畜保健衛生所 TEL 0291-33-6131 (防疫課) TEL 0291-33-6132 (衛生指導課) FAX 0291-33-4494	防疫指導課	鉾田市	鹿嶋市, 潮来市, 神栖市, 行方市, 鉾田市
県南家畜保健衛生所 TEL 029-822-8518 (防疫課) TEL 029-822-7262 (衛生指導課) FAX 029-822-7375	防疫指導課	土浦市	土浦市, 石岡市, 龍ヶ崎市, 取手市, 牛久市, つくば市, 守谷市, 稲敷市, かすみがうら市, つくばみらい市, 稲敷郡, 北相馬郡
県西家畜保健衛生所 TEL 0296-52-0345 FAX 0296-52-4870	防疫指導課	筑西市	古河市, 結城市, 下妻市, 常総市, 筑西市, 坂東市, 桜川市, 結城郡, 猿島郡
畜産センター TEL 0299-43-3333 (代) FAX 0299-36-4433	管理施設情報研究室 企画技術研究室 飼養技術研究室 生産技術研究室 繁殖技術・ゲノム研究センター	石岡市	
畜産センター肉用牛研究所 TEL 0295-52-3167 FAX 0295-53-4490	改良研究室 飼養技術研究室	常陸大宮市	
畜産センター養豚研究所 TEL 029-892-2903 FAX 029-892-3384	育種研究室 飼養技術研究室	稲敷市	

		位置	管轄区域
県北農林事務所 TEL 0294-87-6680 FAX 0294-80-3304	企画調整部門 振興・環境室畜産振興課	常陸太田市	日立市, 常陸太田市, 高萩市, 北茨城市, 常陸大宮市, 久慈郡
県央農林事務所 TEL 029-231-0476 FAX 029-225-9254	企画調整部門 振興・環境室畜産振興課	水戸市	水戸市, 笠間市, ひたちなか市, 那珂市, 小美玉市, 東茨城郡, 那珂郡
鹿行農林事務所 TEL 0291-33-4118 FAX 0291-33-4264	企画調整部門 振興・環境室畜産振興課	鉾田市	鹿嶋市, 潮来市, 神栖市, 行方市, 鉾田市
県南農林事務所 TEL 029-822-8521 FAX 029-822-7345	企画調整部門 振興・環境室畜産振興課	土浦市	土浦市, 石岡市, 龍ヶ崎市, 取手市, 牛久市, つくば市, 守谷市, 稲敷市, かすみがうら市, つくばみらい市, 稲敷郡, 北相馬郡
県西農林事務所 TEL 0296-24-9166 FAX 0296-25-0018	企画調整部門 振興・環境室畜産振興課	筑西市	古河市, 結城市, 下妻市, 常総市, 筑西市, 坂東市, 桜川市, 結城郡, 猿島郡

職 員

令和4年4月1日

		本庁	家畜保健衛生所					畜産センター				計
			県北	鹿行	県南	県西	小計	センター本所	肉用牛研究所	養豚研究所	小計	
職員定数 (現員)		22 (23)	18 (22)	7 (7)	9 (9)	9 (9)	43 (47)	32 (37)	10 (10)	13 (13)	55 (60)	120 (130)
内 訳	事務系	3 (4)	1 (1)			1 (1)	2 (2)	4 (10)	1 (1)	1 (1)	6 (12)	11 (18)
	技術系	19 (19)	18 (20)	7 (7)	9 (9)	8 (8)	42 (44)	20 (19)	7 (7)	10 (10)	37 (36)	98 (99)
	技能労務系							8 (8)	2 (2)	2 (2)	12 (12)	12 (12)
備考												

※ 現員には、育児休業者及び退職者を含む。

		農林事務所等							合計
		県北	県央	鹿行	県南	県西	農大	小計	
職員定数 (現員)		5 (5)	5 (6)	5 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	28 (30)	148 (160)
内 訳	事務系								11 (18)
	技術系	5 (5)	5 (6)	5 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	28 (30)	126 (129)
	技能労務系								12 (12)
備考									

令和 4 年度当初予算総括表

区 分		人件費	その他	計	区 分		人件費	その他	計
		千円	千円	千円			千円	千円	千円
歳 出		1,231,250	1,230,069	2,461,319					
特 定 財 源	国庫支出金	5,822	234,704	240,526	歳 出 節 別 内 訳	1 報 酬	128,285		128,285
	負 担 金		0	0		2 給 料	655,421		655,421
	使 用 料		2,499	2,499		3 職 員 手 当 等	420,833		420,833
	手 数 料	11,776	74,872	86,648		4 共 済 費	26,711		26,711
	財 産 収 入		142,845	142,845		7 報 償 費		1,072	1,072
	繰 入 金		51,878	51,878		8 旅 費		21,310	21,310
	諸 収 入	1,063	54,876	55,939		9 需 用 費		608,437	608,437
	県 債		98,600	98,600		11 役 務 費		38,515	38,515
	計	18,661	660,274	678,935		12 委 託 料		100,581	100,581
						13 使用料及び賃借料		4,488	4,488
一 般 財 源	1,212,589	569,795	1,782,384	14 工 事 請 負 費		104,686	104,686		
				15 原 材 料 費		0	0		
				16 備 品 購 入 費		77,832	77,832		
				18 負担金・補助金及び交付金		272,425	272,425		
				19 貸 付 金		0	0		
				21 補償・補てん及び賠償金		100	100		
				22 償還金・利子及び賠償金		0	0		
				23 公 課 費		623	623		
					計	1,231,250	1,230,069	2,461,319	

# 令和4年度畜産施策方針と重点施策

## 1 現状及び課題

本県畜産は、令和2年産出額が1,270億円で、農業産出額の約28.8%を占める基幹産業であり、首都圏を中心とした大消費地に畜産物を安定的に供給する基地として重要な役割を担っている。

しかしながら、畜産を巡る情勢は、高齢化による担い手の減少や配合飼料や燃料等の資材価格の高騰等による生産コストの増大に加え、人口減少の加速化による国内市場の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要やインバウンド需要が低迷するなど、大変厳しい状況が続いている。

このような中、新たな県総合計画では、「農林水産業の成長産業化と未来の担い手づくり」や「県食材の国内外の販路拡大」等を推進することで、本県農林水産業の成長産業化を図り、儲かる農林水産業の実現と持続的に発展する強い農林水産業を目指している。畜産においても、儲かる畜産経営体の育成と本県畜産業の更なる振興を図るためには、生産性の向上や規模拡大、経営・飼養管理技術の高度化等による収益性の高い経営への転換・育成、長期的な戦略に基づく高付加価値化やブランド化、国内外における積極的な販路開拓等の取組が求められている。

さらに、国内で発生が拡大している豚熱や高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生予防とまん延防止対策等など家畜衛生対策や、霞ヶ浦流域内での畜産環境対策の徹底などが重要な課題となっている。

## 2 対応方針と重点施策

儲かる畜産経営体の育成と本県畜産業の更なる振興を図るため、必要となる施策を「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」、「家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産」、「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」、「試験研究の推進と畜産技術の普及促進」の4本の柱に体系化し、関係者との連携強化を図りながら推進するものとする。

### (1) 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

- ① 「常陸牛」については、更なる品質とブランド力向上を図るため、脂肪の質等に着眼した新たな肉質基準の導入に向けた検討を進めるとともに、優良な繁殖雌牛の増頭を支援することで子牛から肥育まで一貫した生産体制の構築や経営規模拡大や法人化等による儲かる経営の実現を支援する。また、国内外での販売促進活動を支援することで、生産から流通・販売までの対策を一体的かつ戦略的に展開する。
- ② 「常陸の輝き」については、雌系品種や飼料形状等の違いによる肉質向上効果を明らかにするとともに、雌系品種である新たなランドレース種の系統維持・供給施設を整備することで、更なる高品質化と安定生産体制を構築する。
- ③ 「奥久慈しゃも」については、実需者から高く評価されている品質を維持しながら原種鶏を安定的に供給するとともに、更なる販路拡大に向けて生産から流通販売まで一体的な推進方策について検討を行う。また、本県の鶏卵については、生産量が日本一であることだけでなく、茨城の「こだわり卵」の魅力を全国に発信し、消費拡大を図る。
- ④ 酪農については、優良な後継雌牛の導入支援による中核的な酪農経営体の育成や、畜産クラスター計画に基づき畜舎や施設機械等を整備し、経営の規模拡大・収益性向

上を図る取組を支援する。

## (2) 家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産

- ① 家畜伝染病の発生予防対策として、農家自らが行う消毒機器の整備や防鳥ネットの設置等を支援するとともに、飼養衛生管理基準の遵守指導に加え、豚熱対策として、防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチン散布等を行う。
- ② 家畜伝染病が発生した場合のまん延防止対策として、速やかに防疫措置を講じられるよう防疫マニュアルを策定するとともに、万が一発生した場合のまん延防止対策として、大規模農場での発生を想定し、市町村や関係団体等と一体なった防疫措置態勢を構築するとともに、初動防疫に必要な資材の備蓄や防疫演習を実施する。
- ③ 家畜衛生情報を収集するとともに、診断予防技術の向上や、防疫マップシステムの整備を進め、監視・危機管理体制を強化する他、慢性疾病を低減させるための衛生対策を徹底することにより生産性の向上を図る。
- ④ 農場 HACCP や畜産 GAP 等の導入を支援するとともに、動物用医薬品の適正使用や、飼料安全性の確保、消費者への飼養管理情報の提供等により安全安心な畜産物の生産を推進する。

## (3) 環境にやさしい資源循環型畜産の実現

- ① 「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づく管理基準の遵守を指導するとともに、家畜排せつ物の管理・利用状況の把握、畜舎排水の適正化指導、臭気の低減対策を推進する。
- ② 霞ヶ浦・涸沼流域で生産された堆肥について、流域外の農地での利用や肥料メーカーへの原料供給等による広域流通の促進、家畜排せつ物処理施設の補改修による適正処理の支援、液状肥料利用推進のモデル事例づくりを推進し、畜産経営体からの霞ヶ浦・涸沼への負荷削減を図る。

## (4) 試験研究の推進と畜産技術の普及促進

昨年度策定した「畜産センター中期運営計画」に基づき、「ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発」と「持続可能な畜産及び地球温暖化に対応した技術の開発」に重点的に取り組む。なお、試験の実施にあたっては、畜産課や農林事務所畜産振興課等の行政機関をはじめ、国立研究開発法人並びに大学等の研究機関、関係団体、民間等と連携を図り、効率的かつ効果的に研究に取り組むとともに、常に PDCA サイクルを回し必要に応じて柔軟に課題等の見直しを行うものとする。

- ① ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発  
常陸牛、常陸の輝き、奥久慈しゃもの更なる高付加価値化を図るため、品質等に優れた種畜や種鶏を開発し安定的に供給するとともに、遺伝子情報を基に選抜・改良を進めることで新たな種畜造成を目指す。
- ② 持続可能な畜産及び地球温暖化等を支える技術の開発  
乳用牛について、安定的に生乳生産量を確保するための飼養管理方法に関する研究を行うとともに、労力軽減等を図るため ICT 技術普及促進に向けた技術実証や調査

等に取り組んでいく。

また、地域と調和した畜産経営を継続できるよう低コストで実用的な汚水処理技術や液肥の利用促進に関する研究に取り組むとともに、臭気の低減につながる技術開発を進める。

③ 畜産技術の習得支援や人材育成等

畜産関係職員や団体職員等を対象とした技術習得のための研修機関としての役割を畜産センターが担うことで、畜産経営の改善指導や生産技術の普及促進活動等に必要な知識を付与し、畜産技術や経営指導を行える人材を育成する。

令和4年4月

農林水産部畜産課長



# 令和4年度畜産施策体系

(単位：千円)

## 1 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

### 事業費計

690,638 (前年 1,458,455)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
家畜改良増殖費 49,253	家畜生産性向上対策事業費 21,134	家畜生産性向上対策事業費補助	15,153
		優良雌牛地域内流通対策確立	13,654
		畜産共進会事業費補助	220
		県産牛生産情報公開システム確立事業費補助	1,279
		家畜生産性向上対策事業費	5,981
			乳用牛改良対策
		肉用牛改良対策	4,954
		中小家畜改良対策	409
	ブランド豚肉生産拡大事業費 28,119	ブランド豚肉生産拡大事業費	28,119
畜産振興費 639,648	畜産競争力強化対策事業費 484,918	畜産競争力強化対策事業費	0
		畜産競争力強化対策事業費 (R2補正)	484,918
	和牛増頭緊急対策推進事業費 0	和牛増頭緊急対策推進事業費	0
	優良繁殖和牛群整備対策事業費 154,730	優良繁殖和牛群整備対策事業費	154,730
	畜政推進費 0	畜産GAP導入推進事業費	0
飼料対策費 1,737	飼料増産対策事業費 1,737	飼料増産対策事業費	1,737

(単位：千円)

事業費計

27,719 (前年 17,181)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
畜産物流通対策費 23,361	畜産物流通対策事業費 0	肉畜鶏卵生産流通促進事業費	0
		銘柄畜産物ブランド支援事業費	22,362
	銘柄畜産物ブランド支援事業費 22,362	常陸牛ブランド支援対策	17,472
		県産銘柄豚肉支援対策	1,090
奥久慈しゃもブランド力強化支援対策		1,000	
食肉流通合理化促進事業費 999	食肉流通合理化促進事業費 999	いばらきの卵消費拡大支援対策	2,800
畜産振興費 4,358	家畜生産振興事業費 4,358	家畜生産振興事業費	4,358
		酪農近代化促進事業	2,394
		種畜検査事業	64
		家畜取引改善事業	126
		家畜人工授精師講習会開催事業	768
		畜舎技術審査	212
		畜産物生産支援指導費	794

(単位：千円)

## 2 家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産

### 事業費計

539,764 (前年 515,327)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
家畜衛生対策費 49,378	安全・安心な畜産物生産体制確保推進費 31,514	家畜衛生対策事業費	15,392
		監視体制整備対策 家畜の伝染性疾病のまん延防止対策 家畜の伝染性疾病の発生予防対策 畜産物安全性向上対策	4,255 295 9,923 919
		農場防疫対策支援事業費	16,122
	家畜衛生特別対策事業費 16,757	家畜衛生特別対策事業費	14,482
		獣医療提供体制整備事業費	2,275
	動物用医薬品薬事監視費 1,107	動物用医薬品薬事監視費	1,107
	家畜伝染病予防費 431,418	家畜伝染病予防事業費 419,114	家畜伝染病予防事業費
自衛防疫強化総合対策事業費 578		事業費	578
		自衛防疫強化総合対策事業費 地域自衛防疫推進事業費補助	578 0
死亡牛牛海綿状脳症検査補助委託事業費 11,726		死亡牛牛海綿状脳症検査補助委託事業費	11,726
家畜保健衛生所費 57,399	家畜保健衛生所費 57,399	家畜保健衛生所運営費	57,399
飼料対策費 1,569	飼料対策推進事業費 1,569	飼料対策推進事業費	0
		飼料検査事業費	1,569

### 3 環境にやさしい資源循環型畜産の実現

#### 事業費計

66,667 (前年 45,108)

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
畜産環境保全対策費 66,667	資源循環型畜産確立指導事業費 3,789	資源循環型畜産確立指導事業費	3,789
	良質堆肥広域流通促進事業費 51,878	良質堆肥広域流通促進事業費	51,878
		良質堆肥広域流通促進事業費(繰越)	4,240
	家畜排せつ物農外利用等促進事業費 11,000	家畜排せつ物農外利用等促進事業費	0
		家畜排せつ物農外利用等促進事業費(繰越)	11,000

(単位：千円)

#### 4 試験研究の推進と畜産技術の普及促進

<小項目>	<事 項>	<事 業>	<予算額>
<b>事業費計</b>			
281,363 (前年 297,407)			
畜産振興費 38,109	畜産振興推進事業費	畜産経営指導事業費	2,501
	畜政推進費 9,088	畜政推進事業費	6,730
		畜産施策推進対策事業	3,587
		系統豚の分散飼育委託	3,000
		畜産GAP指導員育成	143
		指定助成等事務事業費	2,358
		畜産振興事業受託事務	1,222
		畜産振興補助事業事務事業受託事務	106
		加工原料乳補給金交付業務受託事務	371
		肉用子牛価格安定対策事業受託事務	485
	畜産高度化支援リース対策事業受託事務	174	
	畜産経営指導体制円滑化推進事業費	畜産経営指導体制円滑化推進事業費補助	16,125
		畜産経営指導体制円滑化事業費補助	2,100
		畜産経営改善技術指導事業費補助	10,400
		畜産協会組織強化事業費補助	3,625
	畜産諸費	畜産諸費	10,395
<hr/>			
畜産センター費	畜産センター費	試験研究費・施設整備費等	243,254
243,254	243,254		
	<small>※ 農業経営課バイオテクノロジー試験研究推進費を含む</small>		

※運営費・職員給与費は除いて記載している

# 1 銘柄畜産物のブランド力強化と 生産振興対策

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	家畜生産性向上対策事業費補助	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	15,153千円		
事業主体	茨城県酪農業協同組合連合会、（公社）茨城県畜産協会、（株）茨城県中央食肉公社		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>(1) 優良雌牛地域内流通対策確立推進事業 牛群検定の実施・能力調査による飼養管理改善、優良乳用雌牛の選抜確保並びに作出された優良後継牛の地域内流通、導入に係る経費の補助を行い、地域全体での乳用牛改良を推進するとともに酪農生産基盤の維持・強化を図る。</p> <p>(2) 畜産共進会事業費補助 畜産農家や畜産関係団体が家畜の改良を推進するために参加する畜産共進会の取りまとめや関係団体の調整を推進して集約化、効率化を図る。</p> <p>(3) 県産牛生産情報公開システム確立事業費補助 消費者に県産牛肉の付加価値情報を提供する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 優良雌牛地域内流通対策確立推進事業 <span style="float: right;">13,654千円</span>            ア 事業主体 茨城県酪農業協同組合連合会            イ 補助率 定額：ウ-(ア)、(イ) b、c、(ウ)                      1 / 2 : ウ-(イ) a</p> <p>ウ 事業内容</p> <p>(ア) 高能力牛の作出 乳用牛改良を推進するために、牛群検定を行う優良農場に対して、改良経費の一部を支援する。</p> <p>(イ) 優良後継牛の地域内流通円滑化            a 地域内流通マッチングシステム                (地域内に乳用雌牛を流通するための体制構築への助成)            b 乳用雌子牛の導入支援                (乳用雌子牛の導入に取り組む酪農家に対する補助)            c 乳用雌牛（妊娠牛）の導入支援                (妊娠牛の導入に取り組む酪農家に対する補助)</p> <p>(ウ) 円滑な乳用牛継承の推進 廃業する酪農経営体等の乳用牛の地域内継承に対する助成</p>			

(2) 畜産共進会事業費補助 220 千円

ア 事業主体 (公社) 茨城県畜産協会

イ 補助率 定額

ウ 事業内容

家畜の改良増殖を推進するため広域共進会の開催に要する経費の一部を助成する。

名称	主催団体	開催場所	期日
関東肉牛枝肉共進会	関東肥育牛振興協会	東京都中央卸売市場食肉市場	R4 年 10 月
指導事業費	茨城県畜産協会		

(3) 県産牛生産情報公開システム確立事業費補助 1,279 千円

ア 事業主体 (株) 茨城県中央食肉公社

イ 補助率 1/2 以内

ウ 事業内容

県産肉用牛の給与飼料や飼養管理情報などの生産情報をインターネット上で公開するための情報収集やデータベース作成などに必要な事務経費の一部を助成する。

<過去の予算額>

平成 30 年度 15,730 千円

平成 31 年度 15,353 千円

令和 2 年度 16,470 千円

令和 3 年度 15,553 千円



# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	家畜生産性向上対策事業費	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補	<input checked="" type="checkbox"/> 県単
予算額	5,981千円				
事業主体	県（一部委託）				
対象地域	県内全域				
<b>1 事業の目的</b> <b>(1) 乳用牛改良対策</b> 乳用牛雌牛群の能力検定や受精卵移植技術活用を推進し、乳用牛の改良や飼養管理の改善を促進する。					
<b>(2) 肉用牛改良対策</b> 種雄牛を造成するとともに、全国規模での能力評価体制を確立し、優良種雄牛の広域的な利用を推進する。また、繁殖和牛入門講座を開催し、県内の和牛子牛の生産体制を強化する。					
<b>(3) 中小家畜改良対策</b> 家畜改良増殖法、養蜂振興法並びに養鶏振興法の適正な推進を図り、中小家畜の改良増殖を図る。					
<b>2 事業の内容</b> <b>(1) 乳用牛改良対策</b> 618千円 ア 事業主体 県 イ 事業内容 改良目標策定及び牛群検定の結果に基づいた農家指導 受精卵移植技術を活用した優良乳用牛群の整備等					
<b>(2) 肉用牛改良対策</b> 4,954千円 ア 事業主体 県（一部委託） イ 事業内容 高能力種雄牛の選抜、候補種雄牛生産のための繁殖雌牛群の整備と計画交配の推進 正確度の高い能力評価体制の整備等の実施 新規繁殖和牛入門講座の開催					
<b>(3) 中小家畜改良対策</b> 409千円 ①事業主体 県 ②事業内容 養蜂適正配置推進会議の開催、転飼許可、指導 養鶏振興法に基づくふ化場登録、指導 肉豚出荷動向調査の実施 豚人工授精実習会の開催					

<過去の予算額>

平成 30 年度 3,379 千円

平成 31 年度 4,094 千円

令和 2 年度 3,509 千円

令和 3 年度 4,404 千円

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	ブランド豚肉生産拡大事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																				
予算額	28,119千円																						
事業主体	県、茨城県畜産協会																						
対象地域	県内全域																						
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>養豚研究所で開発した系統豚ローズD-1を活用したブランド豚「常陸の輝き」について、品質の安定化や生産拡大に向けた取組を実施するため、常陸の輝き推進協議会の運営を実施するとともに、品質の安定化に向けた三元豚の雌系品種の効果検討や筋肉内脂肪含量の近赤外線による推定方法を検討する。</p> <p>また、養豚研究所に整備する新豚舎の設計を実施する。</p>																							
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 事業主体 茨城県畜産協会、県</p> <p>(2) 事業内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ア 常陸の輝き生産対策（委託費、県事務費）</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">3,163千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（ア）常陸の輝き推進協議会の運営</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（イ）銘柄推進員の設置</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（ウ）定期的な肉質分析と食味評価の実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（エ）指定生産者巡回、新規生産者説明会の実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（オ）生産拡大のための販路確保対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">イ 常陸の輝きの品種統一に向けた試験研究（事務費：養豚研究所）</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">3,864千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（ア）肉質分析・食味評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">（イ）調査豚の生産費（給与飼料等）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ウ 養豚研究所新豚舎設計費（委託料）</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">21,092千円</td> </tr> </table>				ア 常陸の輝き生産対策（委託費、県事務費）	3,163千円	（ア）常陸の輝き推進協議会の運営		（イ）銘柄推進員の設置		（ウ）定期的な肉質分析と食味評価の実施		（エ）指定生産者巡回、新規生産者説明会の実施		（オ）生産拡大のための販路確保対策		イ 常陸の輝きの品種統一に向けた試験研究（事務費：養豚研究所）	3,864千円	（ア）肉質分析・食味評価		（イ）調査豚の生産費（給与飼料等）		ウ 養豚研究所新豚舎設計費（委託料）	21,092千円
ア 常陸の輝き生産対策（委託費、県事務費）	3,163千円																						
（ア）常陸の輝き推進協議会の運営																							
（イ）銘柄推進員の設置																							
（ウ）定期的な肉質分析と食味評価の実施																							
（エ）指定生産者巡回、新規生産者説明会の実施																							
（オ）生産拡大のための販路確保対策																							
イ 常陸の輝きの品種統一に向けた試験研究（事務費：養豚研究所）	3,864千円																						
（ア）肉質分析・食味評価																							
（イ）調査豚の生産費（給与飼料等）																							
ウ 養豚研究所新豚舎設計費（委託料）	21,092千円																						
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">平成31年度</td> <td style="text-align: right;">4,575千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">令和2年度</td> <td style="text-align: right;">4,327千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">令和3年度</td> <td style="text-align: right;">60,987千円</td> </tr> </table>				平成31年度	4,575千円	令和2年度	4,327千円	令和3年度	60,987千円														
平成31年度	4,575千円																						
令和2年度	4,327千円																						
令和3年度	60,987千円																						

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	畜産競争力強化対策整備事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補	県単																				
予算額	484,918千円(R2補正)																								
事業主体	畜産クラスター協議会																								
対象地域	県内全域																								
<p><b>1 事業の目的</b>  「総合的なTPP関連政策大綱」に基づき、畜産業の維持・発展を図るため、畜産農家をはじめとする地域の関係者が連携し、一体となって地域全体で収益性向上を図る取組を支援する。</p>																									
<p><b>2 事業の内容</b>  (1) 事業内容  農業生産法人、農業者、JA、市町村等による畜産クラスター協議会を組織し、収益性の向上や生産基盤の強化を図るための畜産クラスター計画を策定。その計画の達成に必要な施設等の整備に対し助成（補助率1/2以内）。</p> <p>(2) 対象施設  家畜飼養管理施設、家畜排せつ物処理施設、自給飼料関連施設、畜産物加工、展示・販売施設の整備に要する経費または補改修に要する経費</p> <p>(3) 事業計画 <span style="float: right;">（単位：千円）</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>市町村</th> <th>整備内容</th> <th>事業費</th> <th>補助金額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠間市</td> <td>成牛舎 7 棟、搾乳舎 1 棟、哺乳舎 1 棟、育成舎 2 棟、飼料庫 1 棟、堆肥舎 2 棟、浄化槽 1 基 等</td> <td style="text-align: right;">2,329,135</td> <td style="text-align: right;">1,058,698</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水戸市</td> <td>鶏舎 1 棟 等</td> <td style="text-align: right;">315,607</td> <td style="text-align: right;">130,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">2,644,742</td> <td style="text-align: right;">1,188,698</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						市町村	整備内容	事業費	補助金額	備考	笠間市	成牛舎 7 棟、搾乳舎 1 棟、哺乳舎 1 棟、育成舎 2 棟、飼料庫 1 棟、堆肥舎 2 棟、浄化槽 1 基 等	2,329,135	1,058,698		水戸市	鶏舎 1 棟 等	315,607	130,000		計		2,644,742	1,188,698	
市町村	整備内容	事業費	補助金額	備考																					
笠間市	成牛舎 7 棟、搾乳舎 1 棟、哺乳舎 1 棟、育成舎 2 棟、飼料庫 1 棟、堆肥舎 2 棟、浄化槽 1 基 等	2,329,135	1,058,698																						
水戸市	鶏舎 1 棟 等	315,607	130,000																						
計		2,644,742	1,188,698																						
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>平成30年度 193,400千円(当初)、 94,046千円(補正)</p> <p>平成31年度 806,959千円(当初)、 576,363千円(補正)</p> <p>令和2年度 — 、1,188,698千円(補正)</p> <p>令和3年度 — 、484,918千円(R2補正)</p>																									

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	飼料増産対策事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	1,737千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>自給飼料を活用した安全・安心な畜産物の生産、資源循環型畜産の確立といった視点から、自給飼料生産基盤に立脚した畜産経営を推進するため、自給飼料増産に向けた計画策定、調査分析、技術確立、普及指導を行う。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 飼料作物増産推進指導費 <span style="float: right;">1,189千円</span>          茨城県飼料増産推進会議、地域飼料増産推進会議の開催          生産者への飼料作物生産拡大・普及指導、畜産農家と耕種農家とのマッチング          飼料作物の栽培技術指導、実証ほ設置、家畜への給与指導          自給飼料分析による効率的な飼料給与の推進（分析対象：サイレージ、乾草）          茨城県自給飼料研修会の開催</p> <p>(2) 放牧利用推進費 <span style="float: right;">510千円</span>          飼養管理労力の節減、農地の有効利用、飼料自給率の向上          （遊休農地を活用した効率的な放牧及び長期的放牧技術の普及拡大の推進）</p> <p>(3) 国産飼料資源活用推進費 <span style="float: right;">38千円</span>          エコフィード製造実態調査          エコフィード利用促進指導</p>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成31年度 2,194千円</p> <p>令和2年度 1,737千円</p> <p>令和3年度 1,737千円</p>			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	優良繁殖和牛群整備対策事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	154,730千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<b>1 事業の目的</b> 常陸牛のブランド力向上と儲かる経営体育成のため、和牛繁殖雌牛の増頭や能力向上を支援し、子牛の生産から肥育まで一貫した生産体制の構築と常陸牛の高品質化を図る。			
<b>2 事業の内容</b> (1) 繁殖雌牛増頭支援 ア 繁殖雌牛導入等支援 <span style="float:right">100,000千円</span> 補助対象：外部導入または自家保留により繁殖雌牛の増頭を図る場合の導入経費等 補助率：1/2（上限額400千円以内） 支援頭数：250頭 イ 繁殖コンサルティング支援 <span style="float:right">6,160千円</span> 補助対象：獣医師による妊娠鑑定や妊娠しにくい牛の診察等を行う繁殖コンサルティング経費 補助率：1/2  (2) 高能力繁殖雌牛導入支援 <span style="float:right">35,000千円</span> 補助対象：肉質や増体の良さ等に関する能力が高い雌牛を供卵牛として県外から導入する経費 補助率：定額700千円 支援頭数：50頭  (3) 繁殖牛舎の整備支援 <span style="float:right">10,000千円</span> 補助対象：簡易牛舎の整備に要する経費 補助率：県1/4 ※ ALIC事業(補助率1/2)への上乗せ補助  (4) 肉用牛増頭に向けた指導体制の整備 <span style="float:right">3,570千円</span> ・ICTを活用したオーダーメイド経営計画の策定及びその実行に向けた伴走支援 ・職員の採卵技術習得に向けた研修の実施や高能力繁殖雌牛から採卵を行う経費等			
<過去の予算額> 令和2年度 154,720千円 令和3年度 185,897千円			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	銘柄畜産物ブランド支援事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	22,362千円		
事業主体	各生産者団体等		
対象地域	県内全域		
<b>1 事業の目的</b> 銘柄畜産物の更なるブランド力向上のため、関係団体と連携して、販路拡大対策を行うとともに、新たな付加価値の創出や高品質化に向けた取り組みを推進する。			
<b>2 事業の内容</b>			
(1) 常陸牛ブランド支援対策		17,472千円	
ア 国内対策（販路拡大高品質化対策） (ア) 補助率 1/2以内、定額（東京食肉市場まつり分） (イ) 事業主体 茨城県常陸牛振興協会 (ウ) 事業内容 販路拡大対策（メディア、イベントを活用した情報発信等）、高品質化支援対策（生産者研修会等）、東京食肉市場まつり2022への協賛			
イ 輸出対策 (ア) 補助率 1/2以内 (イ) 事業主体 茨城県畜産協会 (ウ) 事業内容 東南アジアを中心とした販路拡大対策（現地フェアやセミナーの開催） SNS等を活用した常陸牛取扱店等のPR			
ウ おいしさを重視した新基準の導入による常陸牛のトップブランド化 (ア) 事業主体 県（一部委託） (イ) 事業内容 水分含有率、小ザシ指数など、脂肪の質に着目した新たな評価基準について検討			
(2) 県産銘柄豚支援対策		1,090千円	
ア 販路拡大対策 (ア) 事業主体 銘柄豚振興会 (イ) 補助率 1/2以内 (ウ) 事業内容 指定店拡大の対策			
イ 高品質化支援 (ア) 事業主体 (公社)茨城県畜産協会 (イ) 補助率 定額 (ウ) 事業内容 高能力な系統豚「ローズD-1」の普及に対する支援			
(3) 奥久慈しゃもブランド力強化支援対策		1,000千円	
ア 事業主体 いばらき地鶏振興協会 イ 補助率 1/2以内 ウ 事業内容			

G I 登録を契機とした都内百貨店等への販路開拓、販促資材の作成等  
地元の観光イベントや小学校での食育活動等

(4) いばらきの卵消費拡大支援対策

2,800 千円

ア 事業主体 県（一部委託）

イ 事業内容

本県産卵の認知度を向上させるための、動画やロゴマークを活用した PR 活動の実施

<過去の予算額>

令和 2 年度 9,190 千円

令和 3 年度 12,190 千円



# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	家畜生産振興事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>												
予算額	4,358千円														
事業主体	県														
対象地域	県内全域														
<p><b>1 事業の目的</b> 家畜の改良増殖を及び県銘柄畜産物のブランド力の向上を計画的に推進するため、各種業務を実施する。</p>															
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 酪農近代化促進事業            ア 予算額 2,394千円            イ 事業内容            「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」に基づく、茨城県酪農・肉用牛生産近代化計画の推進及び指導</p> <p>(2) 種畜検査事業            ア 予算額 64千円            イ 事業内容            ・定期検査            実施時期 第1班 4月14日（土浦市）            第2班 6月9日（稲敷市）            第3班 7月7日（笠間市、常陸大宮市）            第4班 8月17日（筑西市）            ・臨時検査 随時実施            ・計画頭数（定期検査）</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>畜種</th> <th>乳用牛</th> <th>肉用牛</th> <th>馬</th> <th>豚</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>頭数</td> <td>0頭</td> <td>14頭</td> <td>3頭</td> <td>80頭</td> <td>97頭</td> </tr> </tbody> </table>				畜種	乳用牛	肉用牛	馬	豚	合計	頭数	0頭	14頭	3頭	80頭	97頭
畜種	乳用牛	肉用牛	馬	豚	合計										
頭数	0頭	14頭	3頭	80頭	97頭										
<p>(3) 家畜取引関係事業            ア 予算額 126千円            イ 事業内容            ・家畜商法に基づく家畜商講習会の開催（年1回、2日間 10月頃実施）            ・家畜商の登録及び免許の交付等の実施            ・家畜取引法に基づく家畜市場の登録、指導等を実施する</p>															

(4) 家畜人工授精師（または家畜受精卵移植師）講習会開催事業

ア 予算額 768千円

イ 事業内容

- ・家畜改良増殖法に基づき、家畜人工授精師講習会（または家畜受精卵移植師講習会）の開催を予定  
開催場所：畜産センター、肉用牛研究所  
開催時期：11月頃（要望調査により希望者が集まれば講習会を実施）
- ・家畜人工授精師等の免許交付に必要な修了証発行を実施

(5) 畜舎技術審査

ア 予算額 212千円

イ 事業内容

- ・畜舎特例法に係る計画認定等

(6) 畜産物生産支援指導

ア 予算額 794千円

イ 事業内容

- ・生産・販売推進方策の検討、販路拡大のためのPR支援
- ・県内外マーケティング調査、指定店巡回、食肉フェア等イベント参画
- ・生産拡大に向けた産地支援指導

<過去の予算額>

平成31年度 3,958千円

令和2年度 3,992千円

令和3年度 4,358千円

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	食肉流通合理化促進事業費	新規	<input type="checkbox"/> 継続	国補	<input type="checkbox"/> 県単
予算額	999 千円				
事業主体	県				
対象地域	県内全域				
<p><b>1 事業の目的</b>                  県内の食肉流通合理化のため、茨城県食肉流通合理化計画に基づき食肉センターの再編合理化の取組を支援する。</p>					
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 事業実施主体            県</p> <p>(2) 事業費                  999 千円</p> <p>(3) 事業内容                  食肉センターの再編・整備に関する指導・助言。                  HACCP 等の高度な衛生管理の対応に向けた技術的意見聴取、先進事例調査。                  茨城県食肉センター整備検討委員会の開催。</p>					
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>令和元年度    999 千円</p> <p>令和2年度    999 千円</p>					

## 2 家畜衛生対策の充実と 安全安心な畜産物の生産

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	家畜衛生対策事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/>
予算額	15,392千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 監視体制整備対策</b> <span style="float: right;"><b>4,255千円</b></span></p> <p>(1) 目的 飼養衛生管理基準、特定家畜伝染病防疫指針、畜産物生産ガイドラインの普及・定着を図り、事前対応型防疫体制を整備するなど、監視体制の整備促進を図る。</p> <p>(2) 経費負担区分 国 1/2</p> <p>(3) 事業内容</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 家畜衛生関連情報整備 家畜衛生に関する情報（疾病発生状況、衛生管理状況等）を継続的に収集する。また、危機管理体制を整備するため、畜産経営の衛生関連情報を電子地図（防疫マップ）に蓄積し、家畜保健衛生所において活用できるようにする。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 診断予防技術向上 家畜の伝染性疾病の新たな診断方法、予防技術の確立のための調査方法、調査成績等について検討し、管内において家畜の伝染性疾病の診断及び予防技術確立のため必要となる抗体検査等を行う。</p> <p><b>2 危機管理体制整備対策</b> <span style="float: right;"><b>295千円</b></span></p> <p>(1) 目的 広範囲な地域に影響を及ぼす家畜伝染病の発生に備え、防疫体制の充実を図るための防疫演習を行う。</p> <p>(2) 経費負担区分 国 1/2</p> <p>(3) 事業内容 まん延防止円滑化</p> <p><b>3 生産性向上推進対策</b> <span style="float: right;"><b>9,923千円</b></span></p> <p>(1) 目的 家畜の慢性疾病の低減を図るため、検査・調査を行い、疾病予防マニュアルの作成及び必要な管理指導方法等について検討する。</p> <p>(2) 経費負担区分 国 1/2</p> <p>(3) 事業内容</p>			

- ア 牛疾病対策
- イ 豚疾病対策
- ウ 鶏疾病対策

#### 4 畜産物安全性向上対策

919 千円

##### (1) 目的

H A C C P方式の考え方に基づく衛生管理マニュアルの導入・普及、安全な鶏卵の供給体制の整備、医薬品の品質確保、薬物残留、薬剤耐性菌等に関する情報を収集することにより畜産物の安全性確保対策の充実・強化を図る。

##### (2) 経費負担区分 国 1/2

##### (3) 事業内容

- ア 生産衛生管理体制整備
- イ 鶏卵衛生管理体制整備
- ウ 動物用医薬品危機管理対策

#### <過去の予算額>

平成 31 年度 10,383 千円  
令和 2 年度 10,783 千円  
令和 3 年度 15,034 千円

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	農場防疫対策支援事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/>
予算額	16,122千円		
事業主体	市町村、自衛防疫の推進等家畜衛生の向上を目的とする団体等		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b>                  口蹄疫、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の発生予防のため、地域一体となったねずみ等の野生動物の侵入防止・駆除など農場のバイオセキュリティ向上のための取組を推進する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b>                  (1) 経費負担区分 国 1/2 以内                   (2) 事業内容                      ア 地域協議会の開催                      イ 野生動物の侵入防止対策、消毒等の防疫対策に必要な資材の整備</p>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;                  平成31年度 6,092千円                  令和2年度 6,557千円                  令和3年度 15,544千円</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	家畜衛生特別対策事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	14,482千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 家畜衛生技術高度利用促進対策</b> <span style="float: right;"><b>12,912千円</b></span></p> <p>(1) 目的 食の安全・安心を求める消費者ニーズが高まるなかで、畜産経営の安定化及び安全性の高い畜産物の供給体制の確立のため、農家等から依頼される検査を実施する。</p> <p>(2) 経費負担区分 県 10/10</p> <p>(3) 事業内容 ア ヨーネ病検査 イ オーエスキー病検査 ウ 牛ウイルス性下痢検査 エ 牛伝染性リンパ腫検査 オ その他の検査</p> <p><b>2 放牧繁殖牛衛生特別対策</b> <span style="float: right;"><b>1,208千円</b></span></p> <p>(1) 目的 県内の公共牧場における放牧衛生対策を強化し、強健な乳用牛の育成及び肉用牛の繁殖率向上を図るため、衛生検査と指導を行う。また、近年発生件数が増加している牛伝染性リンパ腫の調査・研究を行う。</p> <p>(2) 経費負担区分 県 10/10</p> <p>(3) 事業内容 ア 放牧牛の定期健診、繁殖指導、衛生指導 イ ピロプラズマ症感染牛の早期発見、対応 ウ 牛伝染性リンパ腫対策のための調査</p> <p>(4) 実施地域 ア 県北地域の公共牧場 イ 県内肉用牛繁殖農場</p>			



3 県有種畜の安定供給対策

362 千円

(1) 目的

本県が保有する高能力種雄牛及び系統豚ローズ L-3、ローズ D-1 等において、口蹄疫、豚熱や鳥インフルエンザ等の衛生対策の徹底を図り、系統の維持及び増殖を確保する。

(2) 経費負担区分 県 10/10

(3) 事業内容

ア 初動防疫に必要な資材整備

イ 発生前における県有種畜への感染防止体制の整備

ウ リスク低減を目的とした管理体制の整備

<過去の予算額>

平成 31 年度 5,474 千円

令和 2 年度 11,919 千円

令和 3 年度 11,679 千円

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	獣医療提供体制整備事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	2,275千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p>1 委託事業</p> <p>(1) 目的 海外悪性伝染病等が発生した場合の危機管理体制を整備するとともに、研修会等を開催して獣医師の知識の向上を図る。</p> <p>(2) 経費負担区分 県 10/10</p> <p>(3) 事業内容 ア 伝染病発生に対応するための危機管理体制の整備 イ 高度な獣医療提供に係る研修会等の開催</p> <p>(4) 事業主体 委託先 (公社) 茨城県獣医師会</p> <p>2 獣医師確保</p> <p>(1) 目的 県農林水産部へ就職する獣医師を確保する。</p> <p>(2) 経費負担区分 県 10/10</p> <p>(3) 事業の内容 獣医学生に修学資金を貸与し、県へ就職する獣医師を確保する。本事業は、農水省の獣医療提供体制整備推進総合対策事業を活用し、修学資金のうち国 1/2、県 1/2 を負担する。</p> <p>(4) 事業実施主体 (公社) 茨城県畜産協会</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成30年度 584千円 平成31年度 585千円 令和2年度 595千円 令和3年度 1,675千円</p>			

## 令和 4 年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	動物用医薬品薬事監視費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	1, 107 千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下、法律）に基づき、国家検定に必要な動物用医薬品の薬事監視を行う。また、適正な動物用医薬品の流通販売を推進するため、販売業者に対して法律及び動物用医薬品等取締規則に基づく薬事監視を強化し、動物薬事の円滑な運用を図る。</p> <p><b>2 事業の内容</b></p> <p>（1）経費負担区分 県 10/10</p> <p>（2）事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 検定品の抜き取り</li> <li>イ 許可関係事務に係る現場審査</li> <li>ウ 販売業等の監視・指導</li> </ul>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>平成 30 年度 900 千円</p> <p>平成 31 年度 905 千円</p> <p>令和 2 年度 905 千円</p> <p>令和 3 年度 766 千円</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	家畜伝染病予防事業費	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補	県単
予算額	419,114千円				
事業主体	県（実施機関 家畜保健衛生所）				
対象地域	県内全域				
<p><b>1 家畜伝染病予防法第5条等に基づく検査及び豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種</b> <span style="float: right;">336,698千円</span></p> <p>(1) 事業の目的</p> <p>死亡牛のBSE検査や鳥インフルエンザのサーベイランス検査など重要伝染病の監視を行うとともに、国内からの清浄化を図る伝染病や発生が一度あれば畜産農家に甚大な被害を与える伝染病に対して、法に基づく検査を行い、患畜等を摘発する。</p> <p>また、令和元年12月20日に茨城県が豚熱ワクチン接種推奨地域となったことから、県内の飼養豚に豚熱ワクチン接種を実施するとともに免疫付与状況確認検査、異常豚の病性鑑定等を実施し、豚熱感染防止対策を講じる。</p> <p>(2) 経費負担区分 国10/10・国1/2以内、県10/10</p> <p>(3) 事業内容</p> <p>ア ヨーネ病検査</p> <p>目的：本病の発生及びまん延を防止するために検査を実施する。</p> <p>実施頭数：4,800頭</p> <p>実施対象：乳用牛及び肉用繁殖雌牛（生後12か月未満のものを除く）</p> <p>検査方法：ELISA検査法等</p> <p>イ 牛伝染性リンパ腫検査</p> <p>目的：本病の発生及びまん延を防止するために検査を実施する。</p> <p>実施頭数：660頭</p> <p>実施対象：肉用繁殖雌牛（生後12か月未満のものを除く）</p> <p>検査方法：ELISA検査法等</p> <p>ウ 腐蛆病検査</p> <p>目的：施設園芸、定飼及び移動ほう群の検査を実施し、本病の発生を防止する。</p> <p>実施群数：3,660群</p> <p>実施対象：飼育されている全てのほう群</p> <p>検査方法：巢脾の肉眼的検査及び細菌学的検査</p> <p>オ 牛伝達性海綿状脳症検査</p> <p>目的：牛海綿状脳症特別措置法及び家畜伝染病予防法に基づき、牛海綿状脳症の浸潤況を把握するとともに、飼料規制等の発生予防対策の検証を行う</p>					

ため、①96か月齢以上の死亡牛②48か月齢以上の起立不能を示す死亡牛③全月齢のBSEを疑う症状のある死亡牛の検査を行う。

実施頭数：400頭

実施対象：死亡牛及び神経症状等を呈した異常牛

検査方法：ELISA検査法

#### カ 高病原性鳥インフルエンザ等検査

目的：消費者に信頼される安全安心な鶏卵、鶏肉を生産するため、鳥インフルエンザ監視体制を強化し防疫体制の充実を図る。

実施羽数：4,220羽

実施対象：定点モニタリング農場（県内の採卵鶏等飼養12農場 毎月1回）

：強化モニタリング農場（県内100羽以上の採卵鶏等飼養農場 年1回）

#### キ 家畜伝染性疾病検査（臨床検査等）

目的：経済的損失の大きい各種伝染性疾病の発生を防止するため、適宜立入検査により疾病の発生状況や飼養状況等を確認して防疫指導を行う。

実施頭羽数及び対象

牛伝染性疾病立入検査 73,500頭

豚伝染性疾病立入検査 1,650,372頭

鶏伝染性疾病立入検査 13,508,700羽

飼養衛生管理基準の遵守状況確認 県内の家畜飼養農場

#### ク 豚熱ワクチン接種

目的：豚熱感染防止のため、豚熱ワクチン接種を行う。

実施頭数：1,047,600頭

実施対象：飼養されている豚及びいのしし

## 2 精度管理体制の整備

5,028千円

### (1) 目的

家畜保健衛生所における家畜疾病検査の信頼性を確保するため、家畜保健衛生所法施行規則の改正により、検査の準備、検体採取、結果報告など全ての検査工程を標準作業書による手順で行う精度管理体制を整備することが規定された。このため、検査の記録と保管、職員の研修、機器の定期的な校正や整備などを行う。

### (2) 経費負担区分 国1/2、県10/10

### (3) 事業内容

#### ア 精度管理体制の整備

検査の記録と保管、職員の研修等

#### イ 機器の校正や整備

機器の定期的な校正や整備

## 3 危機管理体制の整備

26,008千円

### (1) 目的

口蹄疫、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の重要家畜伝染病発生に備えるため、初動防疫に必要な資材を確保するとともに、病性鑑定機器等を整備すること

で、従前に加えて危機管理体制を充実する。

(2) 経費負担区分 国 1 / 2

(3) 事業内容

ア 消毒薬の備蓄

口蹄疫対策用 塩素系消毒薬、消石灰等  
鳥インフルエンザ対策用 逆性石けん系消毒薬、消石灰等

イ 防疫資材の備蓄

防護服、ゴム手袋、帽子、長靴、ゴーグル等

ウ 防疫演習の実施

備蓄した消毒薬・防疫資材等を活用し、万一の発生に備え市町村職員や関係団体職員を対象に消毒ポイントの設営及び運営に関する演習を行う。

エ 民間家畜防疫員の任命

民間獣医師の中から県非常勤特別職である家畜防疫員を任命し、特定家畜伝染病防疫指針に基づく防疫措置業務を迅速に実施するための危機管理体制を構築する。

オ 防疫備蓄資材施設整備

特定家畜伝染病発生時に必要な資材の備蓄と発生時の円滑な資材搬出を目的として、防疫資材備蓄センター（稲敷市）の改修工事を行う。

3 家畜伝染病検査体制の強化

29,135 千円

(1) 目的

家畜の伝染病の迅速で正確な疾病診断のため、家畜保健衛生所の機器・施設を整備するとともに伝染病に備えた防疫機材を整備する。

(2) 経費負担区分 国 1 / 2、県 10 / 10

(3) 事業内容

ア 検査体制の整備

高度で迅速な診断技術に必要な検査機器の導入及び検査体制の維持のために必要な検査機器の整備及び伝染病に備えた動力噴霧器など防疫機材の整備。

イ 施設の改修

正確な検査を実施するための検査環境の整備。

4 家畜伝染病予防事業業務の効率化

11,314 千円

(1) 目的

野生動物の検体採取等の民間委託や、家畜保健衛生所で実施している検査の検体の搬送の外部委託により、交差汚染を防止するとともに、業務の効率化を図る。

(2) 経費負担区分 国 1 / 2

(3) 事業内容

ア 野生いのしし検体採取等業務委託

豚熱及びアフリカ豚熱の浸潤状況確認検査のための野生イノシシの死体の回収および検体採取、県北家畜保健衛生所への検体送付及び死体回収場所の消毒を委託する。

イ 検体運搬の外部委託

遺伝子検査やウイルス分離検査など、県北家畜保健衛生所で行う検査について、鹿行・県南・県西家畜保健衛生所から県北家畜保健衛生所への検体搬入の外部委託を行う。

5 家畜保健衛生所施設の修繕・工事

10,931 千円

(1) 目的

家畜保健衛生所施設等の修繕及び工事を行うことで業務中の職員の安全性を確保するとともに、円滑な検査体制を構築する。

(2) 経費負担区分 県 10 / 10

(3) 事業内容

ア 県南家畜保健衛生所及び県西家畜保健衛生所流し台修繕等

イ BSE 検査センタークレーン修繕

<過去の予算額>

平成 31 年度 184,388 千円

令和 2 年度 472,040 千円

令和 3 年度 412,269 千円

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	自衛防疫強化総合対策事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/>
予算額	578千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<b>1 自衛防疫強化総合対策事業</b>		<b>578千円</b>	
(1) 目的 自衛防疫組織の強化を図るとともに、各種伝染病の発生を防止するため、自衛防疫事業に対して補助する。			
(2) 経費負担区分 国 1/3・1/2 以内、県 1/3・1/2 以内			
(3) 事業内容			
ア 自衛防疫の推進			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議の開催</li> <li>・ 調査資料の作成</li> <li>・ 広報活動</li> </ul>			
(4) 事業主体			
県 （公社）茨城県畜産協会			
<過去の予算額>			
平成30年度 1,620千円			
平成31年度 1,625千円			
令和2年度 1,589千円			
令和3年度 578千円			



## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	死亡牛牛海綿状脳症検査補助委託 事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県単
予算額	11,726千円		
事業主体	県（委託）		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b> 96か月齢以上の死亡牛全頭検査を円滑に推進するため、採材補助、死亡牛管理及び検査補助を委託する。</p> <p><b>2 事業の内容</b></p> <p>（1）経費負担区分 国 1/2 以内、県 10/10</p> <p>（2）事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 死亡牛採材補助</li> <li>イ 死亡牛受付、保管管理</li> <li>ウ ELISA 検査補助</li> </ul>			
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成30年度 11,378千円</p> <p>平成31年度 11,585千円</p> <p>令和2年度 11,588千円</p> <p>令和3年度 11,715千円</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（家畜衛生・安全担当）

事業名	家畜保健衛生所費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	57,399千円		
事業主体	県		
対象地域	県家畜保健衛生所		
<p><b>1 事業の目的</b>  畜産経営の安定向上を図るため、衛生指導体制を確立するとともに、家畜保健衛生業務の効率的運営に資する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 経費区分            県 10 / 10</p> <p>(2) 家畜保健衛生所業務の運営            家畜保健衛生所業務の効率化を図る。</p> <p>(3) 家畜疾病検査員の設置            ・県北家畜保健衛生所 1名            ・鹿行家畜保健衛生所 2名            ・県南家畜保健衛生所 2名            ・県西家畜保健衛生所 4名</p> <p>(4) ダイオキシン測定            家畜保健衛生所に設置されている焼却炉の測定</p> <p>(5) 危険物取扱者の配備            県北家畜保健衛生所に焼却炉運転のための丙種（A重油）取扱者を配備する。</p>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成30年度 43,087千円  平成31年度 45,439千円  令和2年度 44,745千円  令和3年度 44,488千円</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（生産振興担当）

事業名	飼料検査事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	1,569千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b> 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、飼料製造業者等への立入検査・収去を実施することにより、流通する飼料の安全性確保及び品質の改善を図る。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b> (1) 飼料安全法に基づく立入検査・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飼料の安全性に関して、表示事項・BSE発生防止ガイドライン・飼料の適正製造規範（GMP）ガイドライン及び食品残さガイドラインの遵守状況を中心に立入検査を実施する。</li> <li>・ 飼料の品質改善については、地域内流通する飼料の製造・販売業者について、立入検査を行い、必要に応じて収去・分析を行う。</li> <li>・ 飼料安全法に基づく届出関係の指導を行う。</li> </ul>			
<p>&lt;過去の予算額&gt; 令和2年度 1,569千円 令和3年度 1,569千円</p>			

### 3 環境にやさしい資源循環型 畜産の実現

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	資源循環型畜産確立指導事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	3,789千円		
事業主体	県		
対象地域	全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>市町村や関係団体と連携して、畜産経営に起因する環境問題への対応や家畜排せつ物の適正管理と利用促進を図ることにより、地域社会と調和した資源循環型畜産を確立する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 茨城県家畜排せつ物利用促進計画の改訂及び推進 地域内の畜産環境保全、堆肥の利用促進</li> <li>(2) 畜産経営に起因する環境問題への指導、発生状況調査の実施</li> <li>(3) 家畜排せつ物の処理に関する実態調査及び管理指導の実施</li> <li>(4) 畜舎排水等適正化に関する指導の実施</li> <li>(5) 臭気対策に関する調査・指導</li> <li>(6) 施設整備事業に係る推進事務</li> </ul>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成30年度 3,789千円</p> <p>平成31年度 3,789千円</p> <p>令和2年度 3,789千円</p> <p>令和3年度 3,789千円</p>			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（経営環境担当）

事業名	良質堆肥広域流通促進事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	51,878千円		
事業主体	畜産農家、（公社）茨城県畜産協会、堆肥利用集団		
対象地域	霞ヶ浦、涸沼流域内		
<b>1 事業の目的</b> 家畜排せつ物処理施設等の整備による良質堆肥の生産や、畜産農家と耕種農家等のマッチングによる堆肥等の流域外流通の取り組みを支援することで、霞ヶ浦及び涸沼の流入負荷削減を図る。			
<b>2 事業の内容</b> (1) 家畜排せつ物処理施設等への整備補助 ア 霞ヶ浦・涸沼流域の畜産農家 イ 補助率 1/2 以内 ウ 事業内容 良質堆肥等を生産するための堆肥化施設や汚水処理施設等の整備・補改修 (2) 広域流通の推進 ア 事業主体 （公社）茨城県畜産協会、堆肥利用集団 イ 補助率 定額、1/2 以内 ウ 事業内容 (ア) 「茨城県堆肥利用促進協議会」活動支援 「茨城県堆肥利用促進協議会」に堆肥コーディネーターを設置し、堆肥需要の把握と情報提供を行い、畜産農家と耕種農家のマッチングを図り、堆肥利用集団の組織化を支援する。 (イ) 堆肥利用集団の取組支援 霞ヶ浦流域内の畜産農家と耕種農家からなる堆肥利用集団の取組を支援する。 a 堆肥等の輸送費補助 b 堆肥等利用実証ほ設置奨励金 c 堆肥等散布機の導入補助 (3) 推進事務 ア 事業主体 県 イ 事業内容 (ア) 堆肥等を利用するための成分分析・土壌診断 (イ) 耕畜連携ワーキングチーム活動費			
<過去の予算額> 平成30年度 14,856千円 平成31年度 14,856千円 令和2年度 14,856千円 令和3年度 14,856千円			

## 4 試験研究の推進と 畜産技術の普及促進

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜産経営指導事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	2,501千円		
事業主体	県（委託）		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れた畜産経営体を育成するため、生産技術・経営管理の両面から支援指導できる人材の育成及び外部専門家を活用した経営分析・経営指導を行い、収益性・生産性の高い畜産経営体を育成する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 補助率 10/10（委託）</p> <p>(2) 事業主体 県（委託）</p> <p>(3) 事業内容</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 事業推進検討会の開催</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 畜産経営指導者育成セミナーの開催 収益性の高い畜産経営体を育成するため、生産技術・経営管理の両面から支援指導できる人材を育成するセミナーを開催する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 個別経営指導の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">エ 畜産経営関係情報の提供</p>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>平成元年度 2,502千円</p> <p>令和2年度 2,501千円</p> <p>令和3年度 2,501千円</p>			



# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜政推進事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	6,730千円		
事業主体	県		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b>  畜産を巡る情勢に対応した施策を推進するため、各種関係業務を実施する。また、畜産経営の近代化、畜産技術の高度化に対応するため、畜産関係指導者に対する研修に参加し、専門的知識を付与する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 畜産施策推進対策事業 <span style="float: right;">3,587千円</span>  ア 経費負担区分 県 10/10  イ 事業内容  ・畜産施策推進のための調査、会議、事業計画概要の作成等  ・各農林事務所の運営費、自動車税、損害賠償保険等  ・畜産関係団体の体制強化を図るための支援指導  ・各農林事務所会議の開催、全国会議への参加等</p> <p>(2) 系統豚の分散飼育委託 <span style="float: right;">3,000千円</span>  ア 経費負担区分 県 10/10  イ 事業内容  県内養豚農家による系統豚の飼養管理</p> <p>(3) 畜産GAP指導員養成 <span style="float: right;">143千円</span>  ア 経費負担区分 県 10/10  イ 事業内容  畜産GAPの指導員養成のための研修会開催</p>			
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;  令和元年度 6,966千円  令和2年度 6,964千円  令和3年度 6,730千円</p>			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	指定助成等事務事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	2,358千円		
事業主体	県（受託）		
対象地域	県内全域		
<b>1 事業の目的</b> 畜産関係団体が実施する畜産業振興事業の円滑な実施を図る。			
<b>2 事業の内容</b> (1) 畜産業振興事業受託事務 1,222千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 独立行政法人農畜産業振興機構が実施する畜産業振興事業の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (2) 畜産振興補助事業事務事業受託事務 106千円 ア 経費負担区分 地方競馬全国協会 10/10 イ 事業内容 地方競馬全国協会が実施する畜産業振興事業の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (3) 加工原料乳補給金交付業務受託事務 371千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 独立行政法人農畜産業振興機構が実施する加工原料乳補給金交付業務の適正かつ円滑な実施のための審査指導等の業務を受託する。 (4) 肉用子牛価格安定対策事業受託事務 485千円 ア 経費負担区分 独立行政法人農畜産業振興機構 10/10 イ 事業内容 公益社団法人茨城県畜産協会への指導を実施する。 (5) 畜産高度化支援リース事務受託事務 174千円 ア 経費負担区分 一般財団法人畜産環境整備機構 10/10 イ 事業内容 関係団体の指導を行う。			
<過去の予算額> 令和元年度 2,993千円 令和2年度 2,993千円 令和3年度 2,500千円			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産課（畜政担当）

事業名	畜産経営指導体制円滑化推進事業費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
予算額	16,125千円		
事業主体	公益社団法人茨城県畜産協会		
対象地域	県内全域		
<p><b>1 事業の目的</b></p> <p>国際化時代に対応できる経営体を育成するため、畜産協会の情報発信や家畜改良及び経営安定の支援を行う。また、畜産協会を核とした効率的で横断的な経営指導体制を強化する。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 畜産経営指導体制円滑化推進事業費補助 <span style="float: right;">2,100千円</span></p> <p>ア 補助率 1/2以内</p> <p>イ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜改良支援</li> <li>家畜改良のための登録や調査指導、審査研修、経営安定対策事業にかかる生産者への周知及び申請手続きの支援等。</li> </ul> <p>(2) 畜産経営改善技術指導事業費補助 <span style="float: right;">10,400千円</span></p> <p>ア 補助率 1/3以内</p> <p>イ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産コンサルタント職員の設置</li> <li>畜産コンサルタント 5名</li> </ul> <p>(3) 畜産協会組織強化事業費補助 <span style="float: right;">3,625千円</span></p> <p>ア 補助率 定額</p> <p>イ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤役員（専務理事）の設置 1名</li> <li>・畜産技術職員の設置 1名</li> </ul>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>令和元年度 16,625千円</p> <p>令和2年度 16,125千円</p> <p>令和3年度 16,125千円</p>			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	常陸牛増産のための抗酸化物質投与等による良質受精卵採取技術の開発に関する研究事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補	県単																									
試験期間	令和3年度～令和6年度																													
予 算 額	5,340千円																													
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業																													
<b>1 試験の目的</b> 黒毛和種繁殖雌牛における活性酸素代謝物や各種要因と受精卵採取（採卵）成績の関連性を調査することで、採卵成績向上の要素を解明する。また、採卵成績向上対策として、L-カルニチン等の抗酸化物質を用いた採卵成績向上方法を確立し、効率的な受精卵生産技術を開発することで、常陸牛の生産拡大を図る。																														
<b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 活性酸素代謝物の動態の解明</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 活性酸素代謝物や各種要因と採卵成績の関連性の解明</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 抗酸化物質の投与が活性酸素代謝物に及ぼす影響の解明</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ 抗酸化物質の投与が採卵成績に及ぼす影響の解明</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>						試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	ア 活性酸素代謝物の動態の解明	○				イ 活性酸素代謝物や各種要因と採卵成績の関連性の解明	○	○			ウ 抗酸化物質の投与が活性酸素代謝物に及ぼす影響の解明		○	○		エ 抗酸化物質の投与が採卵成績に及ぼす影響の解明				○
試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																										
ア 活性酸素代謝物の動態の解明	○																													
イ 活性酸素代謝物や各種要因と採卵成績の関連性の解明	○	○																												
ウ 抗酸化物質の投与が活性酸素代謝物に及ぼす影響の解明		○	○																											
エ 抗酸化物質の投与が採卵成績に及ぼす影響の解明				○																										
(2) 試験計画 ア 活性酸素代謝物の動態の解明 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛 10 頭 イ 活性酸素代謝物や各種要因と採卵成績の関連性の解明 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛延べ 140 頭 県内農家繫養の黒毛和種繁殖雌牛延べ 80 頭 ウ 抗酸化物質の投与が活性酸素代謝物に及ぼす影響の解明 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛 10 頭 エ 抗酸化物質の投与が採卵成績に及ぼす影響の解明 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛 投与区 10 頭、未投与区 10 頭																														
(3) 調査項目 ア 活性酸素代謝物の血中動態を分析するとともに、最適な採血時期の検討を行う。 イ 採卵成績（採取卵数、正常卵数、変性卵数、未受精卵数、黄体数、遺残卵胞数等）及び日齢、血統、季節、飼養環境等のデータを収集し、血中活性酸素代謝物濃度、各種要因との関連性を分析する。 ウ 抗酸化物質の投与前及び投与後の血中活性酸素代謝物濃度を測定する。これらのデータを基に、抗酸化物質の投与時期及び投与量を検討する。 エ 採卵成績に対する抗酸化物質の投与効果を検証することで、採卵成績向上方法を確立する。																														
<過去の予算額> 令和3年度 4,971千円																														

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	牛の受精卵移植技術普及定着に関する研究	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																				
試験期間	平成2年度～																						
予 算 額	15,363千円																						
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b>          黒毛和種の受精卵の採取及び農家等への譲渡を行うとともに、受精卵の効率的な生産技術の確立について検討する。併せて、農家で飼養されている優良牛（黒毛和種、ホルスタイン種）から農家採卵を行い受精卵移植技術の普及定着を図る。</p> <p><b>2 試験の内容</b>          (1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 場内採卵</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 受精卵販売</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 野外採卵</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画          ア 当センター飼養黒毛和種供卵牛のうち、延べ80頭を供試し、過剰排卵処理を行い、受精卵採取を行う。          イ 県内の牛飼養農家等に対し、270個の受精卵を譲渡する。          ウ 農家飼養黒毛和種50頭から、受精卵採取を行う。</p> <p>(3) 調査項目          ア 効率的な受精卵採取法の検討、活性酸素代謝物や抗ミューラー管ホルモン等を指標とした効率的な体内胚生産方法の検討          イ 受胎率及び生産率の調査・分析          ウ 民間技術者の技術向上指導</p>			試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	備考	ア 場内採卵	○	○	○		イ 受精卵販売	○	○	○		ウ 野外採卵	○	○	○	
試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	備考																			
ア 場内採卵	○	○	○																				
イ 受精卵販売	○	○	○																				
ウ 野外採卵	○	○	○																				
<p>&lt;過去の予算額&gt;          平成29年度 14,729千円          平成30年度 14,107千円          平成31年度 14,662千円          令和2年度 8,442千円          令和3年度 12,242千円</p>																							

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

<b>課題名</b>	黒毛和種における抗ミュラー管ホルモンを指標とした効率的な体内胚生産方法の検討	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																				
<b>試験期間</b>	令和2年度～令和5年度																						
<b>予算額</b>	3,127千円（うち417千円は試験研究推進バイテク予算：農業技術課）																						
<b>摘要</b>	<p><b>1 試験の目的</b>          黒毛和種雌牛の血中抗ミュラー管ホルモン濃度（AMH 値）と採卵成績との関連性を解析することで、AMH 値が採卵回数適正化の指標及び供卵牛早期選抜の指標となるか検討する。さらに、AMH 値が過剰排卵処理時の適正な卵胞刺激ホルモン（FSH）投与量の選択指標となるか検討することで、効率的な受精卵生産技術の確立を図る。</p> <p><b>2 試験の内容</b>          (1) 全体計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 45%;">研究内容</th> <th style="width: 12.5%;">R2 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R3 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R4 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R5 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア. 黒毛和種繁殖雌牛の AMH 値と採卵成績との関連性および採卵回数適正化の検討</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ. AMH 値を指標とした過剰排卵処理時の適切な FSH 投与量の検討</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>ウ. 黒毛和種育成雌牛の血中 AMH 濃度を指標とした、供卵牛の早期選抜方法の検討</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画          ア 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛            供試予定頭数：45 頭          イ 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛            供試予定頭数：27 頭（n=9、3 区）          ウ 畜産センター繫養の黒毛和種繁殖雌牛            供試予定頭数：15 頭</p> <p>(2) 調査項目          ア 当センターの黒毛和種繁殖雌牛から採血を行い、AMH 値を ELISA 法により測定し、採卵成績（回収卵数、正常卵数等）との関連性を解析する。          イ アで得られたデータを基に牛群を 3 区に分け、過剰排卵処理の FSH 投与量を変更した際の AMH 値と採卵成績の関係性を解析する。          ウ 当センター飼養の黒毛和種育成雌牛について、採血を行い、AMH 値を ELISA 法により測定する。初産後、採卵を行い、採卵成績と AMH 値の関連性を解析する。</p>			研究内容	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	ア. 黒毛和種繁殖雌牛の AMH 値と採卵成績との関連性および採卵回数適正化の検討	○	○			イ. AMH 値を指標とした過剰排卵処理時の適切な FSH 投与量の検討			○	○	ウ. 黒毛和種育成雌牛の血中 AMH 濃度を指標とした、供卵牛の早期選抜方法の検討	○	○	○	○
研究内容	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度																			
ア. 黒毛和種繁殖雌牛の AMH 値と採卵成績との関連性および採卵回数適正化の検討	○	○																					
イ. AMH 値を指標とした過剰排卵処理時の適切な FSH 投与量の検討			○	○																			
ウ. 黒毛和種育成雌牛の血中 AMH 濃度を指標とした、供卵牛の早期選抜方法の検討	○	○	○	○																			
<p>&lt;過去の予算額&gt;            令和2年度 2,861 千円            令和3年度 2,629 千円</p>																							

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	優良な常陸牛増産のためのゲノミック評価に関する試験研究事業	新規 継続	国補 県単
試験期間	令和4年度～令和8年度		
予 算 額	16,807千円		
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業		
<p><b>1 試験の目的</b></p> <p>常陸牛のブランド力を向上させ、全国トップブランドの地位を確立させるためには、品質の安定化とエビデンスに基づく他銘柄との差別化が必要である。</p> <p>肉質6形質（枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、皮下脂肪厚、歩留、BMS）、脂肪酸（オレイン酸等）について、ゲノミック評価を実施することにより従来よりも早期に優良な常陸牛が増産可能となり、品質の安定化と改良の効率化を図る。また、小ザシや赤身の旨味に着目した遺伝的改良に取り組むことで、他銘柄との差別化についても検討する。</p>			
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <p>ア 肉質に関する遺伝子のゲノムデータ解析 (R4～R8)</p> <p>イ 小ザシに関する遺伝子のゲノムデータ解析 (R4～R8)</p> <p>ウ 旨味に関する遺伝子のゲノムデータ解析 (R4～R6)</p> <p>(2) 試験計画</p> <p>ア と畜場などで牛のDNAサンプルを1,000検体分採材し、iScanでSNP解析、出荷枝肉情報と合わせてゲノミック評価を行うための訓練群データとする。</p> <p>また県内の繁殖雌牛226検体分を家畜改良事業団にゲノミック評価依頼し、県内繁殖雌牛のゲノムデータを集積する。</p> <p>イ と畜場の牛枝肉断面について1,000検体分、枝肉撮影装置で撮影することで枝肉に入った脂肪の細やかさについて小ザシ指数測定し、アで得られたSNPデータとの関連解析により小ザシ関連遺伝子を探索する。</p> <p>ウ アで得られたDNAサンプルなどを活用し、100検体分PCR検査でイノシン酸関連遺伝子の県内分布状況を把握し、枝肉サンプルの液体クロマトグラフィー解析によりイノシン酸の分析を行いイノシン酸関連遺伝子とイノシン酸含有量の関連を調査する。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>ア SNPデータ解析、枝肉情報（枝肉情報、ロース新面積、バラ厚、皮下脂肪厚、歩留、BMS）、オレイン酸含有量</p> <p>イ 小ザシ指数</p> <p>ウ イノシン酸関連遺伝子解析、イノシン酸含有量</p>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	高能力乳用牛の効率的な飼養管理技術の開発	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>		
試験期間	平成27年度～				
予算額	38,641千円（うち研究費6,213千円）				
摘 要					
<b>1 試験の目的</b> 受胎率低下等により供用年数並びに生涯生産乳量の低下が課題となっている乳用牛について安定的に生乳生産量を確保するための飼養管理方法を検討し、飼養管理技術を確立する。					
<b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画					
試験項目	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考
疾病予防に関する検討	○	○	○	○	
乳用牛における多機能尾部センサを用いた疾病検知に関する研究			○	○	
(2) 試験計画 ア 疾病予防に関する検討 供試動物 ホルスタイン種雌牛（搾乳牛）28頭 試験期間 通年 検討内容 乳房炎ワクチンプログラム、蹄病対策、Ca等サプリメント製剤を活用した周産期管理、暑熱ストレス対策、ゲノミック評価活用による牛群改良  イ 乳用牛における多機能尾部センサを用いた疾病検知に関する研究 供試動物 ホルスタイン種雌牛（搾乳牛）10頭 ホルスタイン種雌子牛（生後1週から1か月齢）10頭 試験期間 1か月 測定方法 多機能尾部センサの尾根部腹側への装着					
(3) 調査項目 ア BCS、乳量、繁殖成績、代謝プロファイル、疾病罹患率等 イ 体表温、ロール角、活動量、直腸温（子牛のみ）及び疾病罹患状況等					
<過去の予算額>					
平成29年度 21,725千円					
平成30年度 21,725千円					
平成31年度 21,208千円					
令和2年度 27,412千円					
令和3年度 37,028千円					



# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	常陸牛品質向上のための脂肪酸関連遺伝子と美味しさ成分等との関連性の解明	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補	県単																																										
試験期間	令和3年度～令和7年度																																														
予 算 額	6,288千円																																														
摘 要	特別電源所在県学技術振興事業 共同研究：茨城大学、茨城キリスト教大学、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門																																														
1 試験の目的	脂肪酸合成に関わる遺伝子と常陸牛のおいしさの関連性の検討をおこなう。また、常陸牛モモ肉の熟成による科学的変化を網羅的に分析し、おいしさ向上に及ぼす影響を検討する。																																														
2 試験の内容	<p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 脂肪酸関連遺伝子と香气成分の関連</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>エ 熟成と理化学性状の関連</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>オ 熟成により変化する香气成分探索</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画および調査項目</p> <p>ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連 脂肪酸関連遺伝子(SCD、FASN)と理化学性状(脂肪酸組成、脂肪融点、食感等)の関連性を検討。</p> <p>イ 脂肪酸関連遺伝子と香气成分の関連 香气成分をヘッドスペース法(鼻先香)、抽出法(口中香)で捕集・抽出し、各方法で捕集した香气成分をGCMS分析し、脂肪酸関連遺伝子(SCD、FASN)と香气成分の関連性を検討。</p> <p>ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連 遺伝子型の違いにより変化した理化学性状や香气成分を実際に人が食べてどのように評価するか官能評価を用いて検討する。</p> <p>エ 熟成と理化学性状の関連 熟成が理化学性状(呈味関連物質(遊離アミノ酸、核酸関連物質、遊離糖)、脂肪酸、食感等)に及ぼす影響を検討する。</p> <p>オ 熟成により変化する香气成分探索 ヘッドスペース法および抽出法で捕集した香气成分をGCMS分析し、熟成による影響を検討。</p> <p>カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連 熟成により変化した理化学性状を実際に人が食べてどのように評価するか検討。</p>						R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連	○	○	○	○	○	イ 脂肪酸関連遺伝子と香气成分の関連	○	○	○	○	○	ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連			○	○	○	エ 熟成と理化学性状の関連	○	○	○	○	○	オ 熟成により変化する香气成分探索	○	○	○	○	○	カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連			○	○	○
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度																																										
ア 脂肪酸関連遺伝子と理化学性状の関連	○	○	○	○	○																																										
イ 脂肪酸関連遺伝子と香气成分の関連	○	○	○	○	○																																										
ウ 脂肪酸関連遺伝子と官能評価の関連			○	○	○																																										
エ 熟成と理化学性状の関連	○	○	○	○	○																																										
オ 熟成により変化する香气成分探索	○	○	○	○	○																																										
カ 熟成による科学的変化と官能評価の関連			○	○	○																																										
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>令和3年度 5,989千円</p>																																															

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	飼料作物品種選定試験	新規	継続	国補	県単																												
試験期間	昭和58年度～																																
予 算 額	2,214千円																																
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b> 飼料作物優良品種種子利用促進要領(最終改正平成17年8月18日17生畜第1312号農林水産省生産局長通知)に基づき、県は県内の自然条件や経営条件に適応性の高い品種を選定し奨励品種として指定するための基礎データを取得する。</p> <p><b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>H26年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イタリアンライグラス</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>トウモロコシ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子実用トウモロコシ</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画 ア イタリアンライグラス ・供試品種： R3秋播き R4春調査 「高能力飼料作物品種選定調査」と合わせ15品種 R4秋播き R5春調査 15品種程度 イ トウモロコシ ・供試品種：「高能力飼料作物品種選定調査」と合わせ21品種 ウ 子実用トウモロコシ ・供試品種：5品種</p> <p>(3) 調査項目 ア イタリアンライグラス (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく (イ) 主な調査項目 ・生育調査：出穂始、倒伏程度、病虫害程度、草丈 ・収量調査：生草収量、乾物率、乾物収量 イ トウモロコシ (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく (イ) 主な調査項目 ・生育調査：初期生育、雄穂開花期、絹糸抽出期、稈長、折損、病虫害程度等 ・収量調査：熟度、生総重、乾物総重、乾物率、有効雌穂割合等 ウ 子実用トウモロコシ (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に準ずる (イ) 主な調査項目 ・生育調査：初期生育、雄穂開花期、絹糸抽出期、稈長、折損、病虫害程度等 ・収量調査：熟度、生総重、乾物総重、乾物率、有効雌穂割合、子実収量等</p> <p>＜過去の予算額＞ 平成29年度 1,284千円 平成30年度 1,284千円 平成31年度 1,500千円 令和2年度 1,989千円 令和3年度 2,190千円</p>					試験項目	H26年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考	イタリアンライグラス	○	○	○	○	○		トウモロコシ	○	○	○	○	○		子実用トウモロコシ		○	○	○	○	
試験項目	H26年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考																											
イタリアンライグラス	○	○	○	○	○																												
トウモロコシ	○	○	○	○	○																												
子実用トウモロコシ		○	○	○	○																												

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室）

課 題 名	高能力飼料作物選定調査試験	新規	継続	国補	県単																					
試験期間	平成26年度～令和4年度																									
予 算 額	577千円																									
摘 要	委託元：（一社）日本草地畜産種子協会																									
<b>1 試験の目的</b> 飼料作物優良品種種子利用促進要領（最終改正平成17年8月18日17生畜第1312号農林水産省生産局長通知）に基づき、県は県内の自然条件や経営条件に適応性の高い品種を選定し奨励品種として指定するための基礎データを取得する。 なお、そのデータは本県及び近隣県等の奨励品種等選定のために活用する。																										
<b>2 試験の内容</b> <b>(1) 全体計画</b> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>H26年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イタリアンライグラス</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>トウモロコシ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						試験項目	H26年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考	イタリアンライグラス	○	○	○	○	○		トウモロコシ	○	○	○	○	○	
試験項目	H26年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考																				
イタリアンライグラス	○	○	○	○	○																					
トウモロコシ	○	○	○	○	○																					
<b>(2) 試験計画</b> ア イタリアンライグラス ・ 供試品種：R3 秋播き R4 春調査 極早生3品種、早生3品種 R4 秋播き R5 春調査 6品種程度  イ トウモロコシ ・ 供試品種：7品種																										
<b>(3) 調査項目</b> ア イタリアンライグラス (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく (イ) 調査項目 ・ 生育調査：出穂始、倒伏程度、病虫害程度、草丈 ・ 収量調査：生草収量、乾物率、乾物収量  イ トウモロコシ (ア) 調査方法 「系統適応性検定試験実施要領(飼料作物)」に基づく (イ) 調査項目 ・ 生育調査：初期生育、雄穂開花期、錦糸抽出期、草丈、稈長、倒伏、折損病虫害程度等 ・ 収量調査：熟度、生茎葉重、生雌穂重、生総重、各乾物率、有効雌穂割合、乾物茎葉重、乾物雌穂重、乾物総重																										
<過去の予算額> 平成29年度 908千円 平成30年度 687千円 平成31年度 687千円 令和2年度 614千円 令和3年度 572千円																										

## 令和 4 年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室、企画情報室）、肉用牛研究所

課 題 名	自給飼料生産・加工指導対策事業	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																								
試験期間	平成 14 年度～																										
予 算 額	3,785 千円																										
摘 要																											
<p><b>1 試験の目的</b></p> <p>飼料作物の生産、調製及び貯蔵を行い、センター繋養牛に年間を通して平衡給与を実施し、効率的な研究推進を図る。</p> <p>畜産物に関する食育の推進と、畜産への理解を深めるため、県民を対象として畜産物加工体験を実施する。</p>																											
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 35%;">試験項目</th> <th style="width: 12.5%;">R3 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R4 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R5 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R6 年度</th> <th style="width: 12.5%;">R7 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 自給飼料生産（本所）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 自給飼料生産（肉研）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ウ 加工指導対策</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 実施内容</p> <p>ア 自給飼料生産（本所） R2 年度まで自給飼料生産の一部委託（作業委託面積：とうもろこし 8.0ha、牧草 7.0） R3 年度から R6 年度までは地力回復を図るため、自給飼料生産を休止して堆肥散布や明渠排水等による土壌改良、緑肥作物を利用した排水対策を実施する。</p> <p>イ 自給飼料生産（肉研） 自給飼料生産の一部委託（作業委託面積：とうもろこし 1.6ha）</p> <p>ウ 加工指導対策 児童、生徒及び消費者を対象とした畜産物加工体験（アイスクリーム、バター、ソーセージ）を実施する。</p>				試験項目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	ア 自給飼料生産（本所）					○	イ 自給飼料生産（肉研）	○	○	○	○	○	ウ 加工指導対策	○	○	○	○	○
試験項目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度																						
ア 自給飼料生産（本所）					○																						
イ 自給飼料生産（肉研）	○	○	○	○	○																						
ウ 加工指導対策	○	○	○	○	○																						
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成 29 年度 20,667 千円 平成 30 年度 20,667 千円 平成 31 年度 21,079 千円 令和 2 年度 22,436 千円 令和 3 年度 3,785 千円</p>																											

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	液状肥料利用促進のための品質安定・簡易分析技術に関する研究	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 県単																				
試験期間	令和4年度～令和6年度																						
予 算 額	986千円																						
摘 要																							
<p><b>1 試験の目的</b>          液状肥料（液肥）の製造条件を収集し、液肥品質のばらつき要因を探索するとともに、液肥の成分値を分析し、畜産現場で液肥の成分値を簡易に推測できる技術を開発する。また、飼料用作物における液肥の肥効特性を検討する。</p>																							
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 液肥品質のばらつき要因探索</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 液肥成分値の簡易分析技術開発</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 飼料用作物における液肥肥効</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画</p> <p>ア 液肥品質のばらつき要因探索          イの試料回収の際に、液肥の処理に関するアンケート調査を実施し、液肥製造方法の実態を調査する。</p> <p>イ 液肥成分値の簡易分析技術開発          50検体/年の試料を公定法で分析するとともに、pHやEC、Brix値の分析を行う。</p> <p>ウ 飼料用作物における液肥肥効          化成肥料区を対象区とし、液肥の施用量を変えた試験区を設け、飼養技術研究室試験圃場にてイタリアンライグラスの生育調査を実施する。          当センターの土壌は灰色グライ土壌であり、当県で一般的な黒ボク土であることから市販の黒ボク土を購入し、ポット試験でもイタリアンライグラスの生育調査を実施する。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>ア 液肥品質のばらつき要因探索          固液分離・凝集剤の有無、汚水処理方式、曝気方法、曝気期間等</p> <p>イ 液肥成分値の簡易分析技術開発          pH、EC、Brix値、窒素全量、りん酸全量、加里全量、各態窒素、炭素率、発芽率等</p> <p>ウ 飼料用作物における液肥肥効          イタリアンライグラスの発芽の良否、草丈、生草収量、乾物収量、硝酸態窒素等</p>				試験項目	R4年度	R5年度	R6年度	備考	ア 液肥品質のばらつき要因探索	○	○	○		イ 液肥成分値の簡易分析技術開発	○	○	○		ウ 飼料用作物における液肥肥効	○	○	○	
試験項目	R4年度	R5年度	R6年度	備考																			
ア 液肥品質のばらつき要因探索	○	○	○																				
イ 液肥成分値の簡易分析技術開発	○	○	○																				
ウ 飼料用作物における液肥肥効	○	○	○																				
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;</p>																							

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）、養豚研究所

課 題 名	活性汚泥モデルと新規窒素除去反応アナモックスの利用による畜産廃水処理技術の高度化	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県単			
試験期間	令和4年度～令和8年度					
予 算 額	10,004千円					
摘 要	委託元：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門					
<b>1 試験の目的</b> 畜産排水を浄化処理し、放流する際に適用される水質汚濁防止法のうち「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物」の厳しい暫定基準値に対応することを目的とし、既存の活性汚泥処理施設の窒素除去能力を高めるために溶存酸素制御による曝気運転条件の最適化の検討とアナモックス菌の発生状況のモニタリングを行う。						
<b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画						
試験項目						
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	備考
ア	畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較					
	○					
	溶存酸素濃度制御前の水質測定					
		○				
	タイマー制御による溶存酸素濃度制御の効果検証					
			○	○	○	
	インバーター制御による溶存酸素濃度制御の効果検証					
イ	○	○	○	○	○	
	アナモックス菌の発生状況のモニタリング					
(2) 試験計画 ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較 低溶存酸素条件下での活性汚泥処理における窒素除去性能を検証する。 イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング アナモックス菌未自生の養豚農家汚水処理施設を低溶存酸素条件で運転することでアナモックス菌が自然発生するのかモニタリングを行う。						
(3) 調査項目 ア 畜産排水の活性汚泥処理モデルを用いた窒素除去性能比較 流入水、曝気槽内汚水、最終処理水の pH、EC、BOD 除去率、窒素成分除去率 イ アナモックス菌の発生状況のモニタリング 曝気槽内汚泥内に含まれるアナモックス菌の DNA 量測定						
<過去の予算額>						

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	地域資源を活用した低コスト脱臭技術に関する研究	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																								
試験期間	令和2年度～令和5年度																										
予 算 額	927千円																										
摘 要																											
<p><b>1 試験の目的</b>          県内で安定的に供給可能な多孔質資源を活用し、設置と維持管理が容易な低コスト簡易脱臭に関する技術を開発することで、悪臭に対する苦情の発生件数の削減と周辺環境と調和した持続的な畜産経営の進展を図る。</p>																											
<p><b>2 試験の内容</b>          (1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 脱臭能力の高い資材の検討</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 簡易脱臭槽の構造の検討</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 使用後の脱臭資材の二次利用法の検討</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画          ア 脱臭能力の高い資材の検討          地域で安価に手に入りやすい資材について、アンモニアガスの除去能力を検討する。          イ 簡易脱臭槽の構造の検討          ビニールハウスをベースとした簡易脱臭設備を開発するため、必要容積等の基本構造について検討する。          ウ 使用後の脱臭資材の二次利用方法の検討          脱臭槽の充填資材として使用した資材の土壌改良効果の検討を行う。</p> <p>(3) 調査項目          ア 脱臭能力の高い資材の検討          充填資材の種類検討、脱臭能力の測定（検知管）          イ 簡易脱臭槽の構造の検討          脱臭槽の必要容積、資材充填量、設置および運転コスト          ウ 使用後の脱臭資材の二次利用方法の検討          コマツナや玉ねぎを用いた生育試験（ポット試験）</p>				試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考	ア 脱臭能力の高い資材の検討	○	○				イ 簡易脱臭槽の構造の検討		○	○	○		ウ 使用後の脱臭資材の二次利用法の検討			○	○	
試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考																						
ア 脱臭能力の高い資材の検討	○	○																									
イ 簡易脱臭槽の構造の検討		○	○	○																							
ウ 使用後の脱臭資材の二次利用法の検討			○	○																							
<p>&lt;過去の予算額&gt;          令和2年度 929千円          令和3年度 929千円</p>																											

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課題名	多孔質資材を利用した畜産排水の低コスト蒸発散処理に関する研究	新規	継続	国補	県単																																				
試験期間	令和2年度～令和5年度																																								
予算額	6,253千円																																								
摘要	特別電源所在県科学技術振興事業 共同研究：農業総合センター園芸研究所																																								
1 試験の目的	設置と管理が簡便なビニールハウスと多孔質資材を組み合わせた新たな蒸発散技術を検討し、畜産農家が浄化処理した畜舎排水を低コストで効率よく処理するシステムを開発する。また、蒸発散技術で使用した多孔質資材を肥料価値のある低価格の土壌改良剤として再利用する手法について検討する。																																								
2 試験の内容	<p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 蒸発散特性に優れる多孔質資材の探索および効果的活用法の検討（畜セ）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ ハウス型蒸発散処理が周辺環境に及ぼす影響の解明（畜セ）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 効率的蒸発散システムの構築（畜セ）</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ 土壌改良効果および肥料効果の解明（園研）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ 施用技術の確立（園研）</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 蒸発散特性に優れる多孔質資材の探索および効果的活用法の検討 ビニールハウスにおける各種多孔質資材の蒸発散特性を解明し、単体利用や組み合わせ利用等の効果的な活用法について検討する。</li> <li>イ ハウス型蒸発散処理が周辺環境に及ぼす影響の解明 浄化処理した豚舎排水をビニールハウスで蒸発散する場合に、発生する臭気物質の種類および濃度について検証し、臭気の発生を最小限に抑える手法を開発する。</li> <li>ウ 効率的蒸発散システムの構築 養豚研究所の実排水を用いて、蒸発散効率を最大限に高めつつ、臭気物質の発生を最小限に抑えたビニールハウス型蒸発散システムについて検討する。</li> <li>エ 土壌改良効果および肥料効果の解明 畜舎排水の蒸発散に使用した多孔質資材について、ポット試験により土壌改良効果及び肥料効果を解明する。</li> <li>オ 施用技術の確立 蒸発散に使用した多孔質資材について、それぞれの持つ土壌改良効果及び肥料特性を活かした施肥技術を開発する。</li> </ul> <p>(3) 調査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 蒸発散特性に優れる多孔質資材の探索および効果的活用法の検討 温湿度、蒸発散量、保水量</li> <li>イ ハウス型蒸発散処理が周辺環境に及ぼす影響の解明 アンモニア、低級脂肪酸、硫黄化合物</li> <li>ウ 効率的蒸発散システムの構築 ハウス内外の温湿度 投入水：水質、投入水量 敷材：水分含量、蒸発散量、EC、無機態窒素濃度、無機物含量</li> <li>エ 土壌改良効果および肥料効果の解明 植物体地上部の新鮮重、乾物重、養分含有量、土壌の化学性</li> <li>オ 施用技術の確立 圃場規模での検討（新鮮重、乾物重、養分含有量、土壌の化学性）</li> </ul>					試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考	ア 蒸発散特性に優れる多孔質資材の探索および効果的活用法の検討（畜セ）	○	○				イ ハウス型蒸発散処理が周辺環境に及ぼす影響の解明（畜セ）	○	○	○			ウ 効率的蒸発散システムの構築（畜セ）			○	○		エ 土壌改良効果および肥料効果の解明（園研）	○	○				オ 施用技術の確立（園研）			○	○	
試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	備考																																				
ア 蒸発散特性に優れる多孔質資材の探索および効果的活用法の検討（畜セ）	○	○																																							
イ ハウス型蒸発散処理が周辺環境に及ぼす影響の解明（畜セ）	○	○	○																																						
ウ 効率的蒸発散システムの構築（畜セ）			○	○																																					
エ 土壌改良効果および肥料効果の解明（園研）	○	○																																							
オ 施用技術の確立（園研）			○	○																																					
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>令和2年度 6,356千円</p> <p>令和3年度 6,584千円</p>																																									



## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	地鶏供給事業	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>
試験期間	平成20年度～		
予 算 額	5,615千円		
摘 要			
<p><b>1 試験の目的</b>                  本県の銘柄地鶏である「奥久慈しゃも」の原種鶏の維持および種鶏雛の供給により、奥久慈しゃもの生産をサポートし、さらに生産の安定化および品質の維持を図る。</p>			
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 事業計画</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 奥久慈しゃも原種鶏の維持</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 奥久慈しゃも種鶏雛の供給</p> <p>(2) 事業項目</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 奥久慈しゃも原種鶏の維持</p> <p style="margin-left: 40px;">しゃも種J系統：雄240羽、雌620羽</p> <p style="margin-left: 40px;">名古屋種T系統：雄80羽、雌230羽</p> <p style="margin-left: 40px;">ロードアイランドレッド種L系統：雄70羽、雌290羽</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 奥久慈しゃも種鶏雛の供給</p> <p style="margin-left: 40px;">しゃも種J系統：雄250羽/年</p> <p style="margin-left: 40px;">交雑種(T×L)：雌1,800羽/年</p>			
<p>＜過去の予算額＞</p> <p>平成29年度 3,161千円</p> <p>平成30年度 2,551千円</p> <p>平成31年度 3,374千円</p> <p>令和2年度 3,195千円</p> <p>令和3年度 3,191千円</p>			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（生産技術研究室）

課 題 名	奥久慈しゃもの遺伝子解析を用いた次世代種鶏群育成技術の開発に関する試験研究事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補		県単																																																	
試験期間	令和3年度～令和7年度																																																						
予 算 額	8,400千円																																																						
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業																																																						
<p><b>1 試験の目的</b></p> <p>近交退化が危惧される奥久慈しゃも原種鶏のロードアイランドレッド種（L系統）について、近交度を低下させることができ、かつ肉質の維持が可能な次世代鶏の作出手法を確立する。また、ゲノム解析により産卵率に関与する遺伝子の探索を行い、解明された遺伝子の育種への利用効果を検証する。これらにより奥久慈しゃも生産の安定化を目指す。</p>																																																							
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">試験項目</th> <th style="width: 8%;">R3年度</th> <th style="width: 8%;">R4年度</th> <th style="width: 8%;">R5年度</th> <th style="width: 8%;">R6年度</th> <th style="width: 8%;">R7年度</th> <th style="width: 8%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 次世代原種鶏作出技術の確立</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・次世代原種鶏能力調査</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・地鶏のおいしさ調査</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 産卵率に関与する遺伝子の解明</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・遺伝子検査</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ゲノム育種への応用</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画</p> <p>ア 次世代原種鶏作出技術の確立 既存のロードアイランドレッド種L系統と外部導入した同種YA系統の交配によって交雑種（F1）を2鶏種（L×YA、YA×L）作出し、既存のL系統との生産性を各鶏種150羽ずつ用いて比較する。</p> <p>イ 産卵率に関与する遺伝子の解明 既存のロードアイランドレッド種L系統150羽を用いて調査した個体ごとの産卵率と、各個体から抽出したゲノムDNAを用いて、産卵率向上に関与する遺伝子を探索する。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>ア 次世代原種鶏作出技術の確立 育成率、生存率、体重、産卵率、個卵重および飼料要求率</p> <p>イ 産卵率に関与する遺伝子の解明 個体ごとの産卵率、高産卵率群と低産卵率群のSNP頻度の差</p>							試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	備考	ア 次世代原種鶏作出技術の確立							・次世代原種鶏能力調査	○	○	○				・地鶏のおいしさ調査			○	○	○		イ 産卵率に関与する遺伝子の解明							・遺伝子検査	○	○	○	○			・ゲノム育種への応用		○	○	○	○	
試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	備考																																																	
ア 次世代原種鶏作出技術の確立																																																							
・次世代原種鶏能力調査	○	○	○																																																				
・地鶏のおいしさ調査			○	○	○																																																		
イ 産卵率に関与する遺伝子の解明																																																							
・遺伝子検査	○	○	○	○																																																			
・ゲノム育種への応用		○	○	○	○																																																		
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt; 令和3年度 7,830千円</p>																																																							

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（改良研究室）

課 題 名	後代検定事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補	<input checked="" type="checkbox"/> 県単														
試験期間	昭和27年度～																		
予 算 額	29,776千円																		
摘 要																			
<p><b>1 試験の目的</b>  常陸牛をはじめ肉用牛を安定的に生産するために、県肉用牛広域後代検定推進事業実施要領に基づき、後代検定により高能力な種雄牛を計画的に作出し、優良凍結精液を生産供給することで産肉能力の高い子牛生産を支援する。</p>																			
<p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>R8年度</th> <th>R9年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>後代検定事業の実施</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画（飼養頭数、凍結精液生産及び供給本数）</p> <p><b>【繫養種雄牛】</b></p> <p>ア 種雄牛4頭：優良凍結精液を生産供給する種雄牛  茂光洋、北平関、日出丸105、埴安福</p> <p>イ 候補種雄牛10頭：後代検定を実施している、または今後実施する種雄牛  義常治、那珂光圀、那珂茂晴、茂忠6、稲乃大重、夢美桜、柴咲幸、夢太郎8、  那珂394、美美2</p> <p>ウ 凍結精液の生産及び譲渡計画  生産本数12,000本、 譲渡本数6,500本</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>ア 和牛産肉能力検定（現場後代検定法）に基づき、当該候補種雄牛の産子を肥育する。（出荷月齢：去勢29か月齢未満、雌32か月齢未満）</p> <p>イ 枝肉成績から育種価に基づく遺伝的能力評価を行い本県繁殖雌牛の血統構成や市場性を考慮した期待度の高い候補種雄牛を選抜し、優良凍結精液の供給を行う。</p> <p>ウ 新たな種雄牛作出に向けた県内繁殖牛の産肉能力データの収集や交配指導の実施を行う</p> <p>(ア) 本年度に後代検定終了・評価する候補種雄牛2頭（義常治、那珂光圀）</p> <p>(イ) 本年度も継続して検定を実施する候補種雄牛2頭（那珂茂晴、茂忠6）</p> <p>(ウ) 本年度に後代検定を開始する候補種雄牛 2頭（稲乃大重、夢美桜）</p> <p>(エ) 本年度に試験交配を実施する候補種雄牛 2頭（夢太郎8、那珂394）</p>							R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	後代検定事業の実施	○	○	○	○	○	○
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度													
後代検定事業の実施	○	○	○	○	○	○													
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成29年度 24,183千円</p> <p>平成30年度 24,368千円</p> <p>平成31年度 25,219千円</p> <p>令和2年度 24,994千円</p> <p>令和3年度 26,254千円</p>																			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所 (飼養技術研究室)

課 題 名	早期母子分離・人工哺乳による黒毛和種子牛生産性向上技術確立	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																																										
試験期間	平成31年度～令和5年度																																												
予 算 額	3,826千円																																												
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b>            早期母子分離は、母牛の発情回帰の早期化による分娩期間の短縮が見込まれるため、子牛の増頭に繋がる有効な技術である。しかし、人工哺乳の労力・経費がかかり、子牛の発育や咆哮、第一胃に及ぼす影響は不明確である。早期母子分離および人工哺乳期間短縮による子牛生産技術を体系化する。</p> <p><b>2 試験の内容</b>  <b>(1) 全体計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早期母子分離および人工哺乳が子牛の発育に及ぼす影響</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>早期母子分離が子牛の第一胃に及ぼす影響</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>早期母子分離が母牛および子牛の咆哮に及ぼす影響</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>早期母子分離が母牛の繁殖性に及ぼす影響</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>実証試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>マニュアル作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>(2) 試験計画</b>            ア. 子牛            対照区 : 90日齢まで母子同居 (n=4)            強化哺乳60日区 : 3日齢で早期母子分離、60日齢まで強化哺乳による人工哺乳 (n=3)            強化哺乳45日区 : 3日齢で早期母子分離、45日齢まで強化哺乳による人工哺乳 (n=3)            イ 母牛            対照区 : 分娩後90日まで母子同居 (n=4)            試験区 : 分娩後3日で早期母子分離 (n=6)</p> <p><b>(3) 調査項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子牛の増体重、飼料摂取量、健康状態、血液性状</li> <li>子牛の第一胃液中プロトゾア数、VFA、pH</li> <li>子牛および母牛の母子分離時の咆哮回数</li> <li>母牛の分娩後の子宮回復、発情回帰日数、授精回数、受胎率</li> </ul>				H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	早期母子分離および人工哺乳が子牛の発育に及ぼす影響	○	○	○	○	○	早期母子分離が子牛の第一胃に及ぼす影響	○	○	○	○	○	早期母子分離が母牛および子牛の咆哮に及ぼす影響	○	○	○	○	○	早期母子分離が母牛の繁殖性に及ぼす影響	○	○	○	○	○	実証試験				○	○	マニュアル作成					○
	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																								
早期母子分離および人工哺乳が子牛の発育に及ぼす影響	○	○	○	○	○																																								
早期母子分離が子牛の第一胃に及ぼす影響	○	○	○	○	○																																								
早期母子分離が母牛および子牛の咆哮に及ぼす影響	○	○	○	○	○																																								
早期母子分離が母牛の繁殖性に及ぼす影響	○	○	○	○	○																																								
実証試験				○	○																																								
マニュアル作成					○																																								
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> 平成31年度 5,405千円 令和2年度 5,423千円 令和3年度 3,526千円																																													

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター肉用牛研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	茨城県における繁殖和牛の周年放牧管理技術の確立	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																														
試験期間	令和2年度～令和6年度																																
予 算 額	1,904千円																																
摘 要																																	
<p><b>1 試験の目的</b>          放牧期間を延長し、飼養規模の拡大による繁殖和牛の増頭を図るため、新たに茨城県北部に適した耕作放棄地等での放牧利用草種として、耐湿性に優れた新品種の放牧適応性を検証する。また、これまで開発された個々の技術を体系的に連携した周年放牧技術を確立する。併せて、放牧地で人工授精等に必要な放牧付帯施設を実証する。</p>																																	
<p><b>2 試験の内容</b>  <b>(1) 全体計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 新品種草種の放牧適応性の検討</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 周年放牧のための既往成果技術組合せの検討</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ウ 放牧地における放牧付帯施設の実証</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>エ 現地実証及びマニュアル作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>(2) 試験計画</b>          放牧地における周年放牧のための草種組合せの検討          ア 新品種草種の放牧適応性の検討          ・夏用牧草(飼料用ヒエ)の放牧適応性の検討及び実証          品種 青葉ミレット耐湿性に極めて優れ多収。再生力旺盛で2～3回青刈り利用可能。          ・寒冷地用牧草(フェストロリウム)の放牧適応性の検討及び実証          品種 那系1号耐湿性に優れ、排水不良な転作水田利用で安定多収生産が期待できる。          イ 既往成果の組合せによる実証          ・品種 バヒアグラス、ライムギ、イタリアンライグラス等          ウ 放牧付帯施設の実証          ・放牧地に施設(捕獲・授精施設、給水施設等)を設置し、実証検討する。</p> <p><b>(3) 調査項目</b>          播種時期、播種量、収量、成分、越年性、牧養力、草種組合せ、設置コスト</p>				試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	ア 新品種草種の放牧適応性の検討	○	○	○	○	○	イ 周年放牧のための既往成果技術組合せの検討	○	○	○	○	○	ウ 放牧地における放牧付帯施設の実証	○	○	○	○	○	エ 現地実証及びマニュアル作成				○	○
試験項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																												
ア 新品種草種の放牧適応性の検討	○	○	○	○	○																												
イ 周年放牧のための既往成果技術組合せの検討	○	○	○	○	○																												
ウ 放牧地における放牧付帯施設の実証	○	○	○	○	○																												
エ 現地実証及びマニュアル作成				○	○																												
<p>-----          &lt;過去の予算額&gt;          令和2年度 1,060千円          令和3年度 983千円</p>																																	

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（育種研究室）

課 題 名	ランドレース種系統造成試験	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	国補	<input checked="" type="checkbox"/> 県単																																				
試験期間	平成29年度～令和6年度																																								
予算額	9,889千円																																								
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b> 肉豚の生産現場では、三元交雑豚を肉豚として肥育するため、雄系、雌系の品種について総合的な育種改良が必要である。そこで、本県産銘柄豚をはじめとする優良な三元交雑豚を安定的に生産するため、系統豚ローズ L-3 の後継豚となる優秀なランドレース種作成に向けた系統造成を行う。</p> <p><b>2 試験の内容</b></p> <p>(1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 目標設定</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 基礎豚導入</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 系統造成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第一世代</td> <td>第二世代</td> <td>第三世代</td> <td>第四世代</td> <td>第五世代</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画            ア 目標値 生存産子数：12頭、3週齢総体重：64kg、1日平均増体重：930g            イ 基礎豚 ローズ L-3、県内種豚場生産豚、他県系統豚、輸入精液            ウ 系統造成 令和3年度に生産した第三世代を育成・選抜し、第四世代豚を生産            集団規模：雄10頭、雌40頭            交配：10～11月に集中交配、2～3月に集中分娩</p> <p>(3) 調査項目            一次選抜：体重30kg時に1母豚あたり雄1頭・雌2頭を選抜            二次選抜：体重105kg時に雄10頭・雌40頭を選抜            BLUP法アニマルモデルを用いた総合育種価により選抜            (生存産子数、3週齢総体重、1日平均増体重)            肢蹄・体型等は独立淘汰法による</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;            平成30年度 4,174千円            平成31年度 8,319千円            令和2年度 9,126千円            令和3年度 8,074千円</p>					試験項目	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	ア 目標設定	○								イ 基礎豚導入		○	○						ウ 系統造成				第一世代	第二世代	第三世代	第四世代	第五世代
試験項目	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																																	
ア 目標設定	○																																								
イ 基礎豚導入		○	○																																						
ウ 系統造成				第一世代	第二世代	第三世代	第四世代	第五世代																																	

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（育種研究室）

課題名	大ヨークシャー種改良普及試験	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																
試験期間	昭和45年度～																		
予算額	9,127千円（うち受託2,040千円）																		
摘要	委託元：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構																		
<b>1 試験の目的</b> 大ヨークシャー種は、本県産銘柄豚肉の「常陸の輝き」をはじめとする高品質豚肉生産における雌系の種豚である。農家のニーズなどから設定した改良目標に従い、開放型育種手法による高能力純粋種豚の作出・供給を行うことで広域的な改良効果を生み出すことを目的とする。																			
<b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画 改良目標に沿って優良な精液を活用した改良を行い、育成豚及び人工授精用精液を養豚農家に配布する。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 改良目標の設定</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 外部精液の導入</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ 大ヨークシャー種の改良</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				試験項目	R3年度	R4年度	R5年度	ア 改良目標の設定	○			イ 外部精液の導入		○		ウ 大ヨークシャー種の改良	○	○	○
試験項目	R3年度	R4年度	R5年度																
ア 改良目標の設定	○																		
イ 外部精液の導入		○																	
ウ 大ヨークシャー種の改良	○	○	○																
(2) 試験計画 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                     ① 常時飼養計画頭数                          種雄豚    6頭                          種雌豚    18頭                 </td> <td style="width: 50%;">                     ② 養豚農家への配布予定頭数                          育成豚    25頭                          精液      120本                 </td> </tr> </table>				① 常時飼養計画頭数 種雄豚    6頭 種雌豚    18頭	② 養豚農家への配布予定頭数 育成豚    25頭 精液      120本														
① 常時飼養計画頭数 種雄豚    6頭 種雌豚    18頭	② 養豚農家への配布予定頭数 育成豚    25頭 精液      120本																		
(3) 調査項目 ① 繁殖成績 生存産仔数、3週齢総体重等 ② 産肉能力 一日平均増体重、背脂肪厚、ロース断面積等 ③ 集団の遺伝構成 平均血縁係数、平均近交係数																			
<過去の予算額> 平成30年度 9,227千円 令和元年度 8,811千円 令和2年度 8,972千円 令和3年度 8,061千円																			

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（育種研究室）

課題名	ランドレース種系統造成における育種方法の検討	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>															
試験期間	平成31年度～令和4年度																	
予算額	689千円																	
摘要	<p><b>1 試験の目的</b>          養豚の生産現場からは、生産性を高めるために長期間安定した繁殖成績が期待できる優良種豚の供給が強く求められているが、従来の豚の系統造成の手法では、閉鎖群で1年1産で選抜を繰り返すため、選抜された豚の2産目以降の繁殖性に関する知見が得られていない。そこで、閉鎖群での種豚選抜において、2産目以降も安定した繁殖成績を有する種豚の選抜手法を確立することで種豚の長期供用と生産性の向上を図る。</p> <p><b>2 試験の内容</b>          (1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>H31年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 2産時の母豚の調査</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 産次間の相関検討</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画          ア 2産時の母豚の調査          ランドレース種系統造成途中世代豚          イ 産次間の相関検討          ランドレース種系統造成途中世代豚の1産及び2産次データ</p> <p>(3) 調査項目          ア 2産時の母豚の調査          繁殖成績：発情再帰日数、受胎率、次産成績（産子数又は胎児数）          イ 産次間の相関検討          初産時と2産時の繁殖成績とその他の成績を比較し、相関の有無を確認する。          相関が高い形質について、系統造成のパラメーターとして活用を検討する。</p>			試験項目	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	ア 2産時の母豚の調査	○	○	○	○	イ 産次間の相関検討		○	○	○
試験項目	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度														
ア 2産時の母豚の調査	○	○	○	○														
イ 産次間の相関検討		○	○	○														
<p>-----</p> <p>&lt;過去の予算額&gt;          令和元年度 356千円          令和2年度 2,471千円          令和3年度 716千円</p>																		



# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	系統豚維持試験 (ランドレース種、デュロック種)	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																		
試験期間	昭和62年～																				
予算額	30,899千円																				
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b>                      ランドレース種系統豚「ローズL-3」及びデュロック種系統豚「ローズD-1」を、本県の銘柄豚や高品質豚肉生産の基礎豚として、長期間安定して利用できるよう、近交係数・血縁係数の上昇を最小限に抑えながら、維持及び供給を行う。</p> <p><b>2 試験の内容</b>                      (1) 試験計画                      系統豚「ローズL-3」及び「ローズD-1」の主要形質（繁殖成績や産肉成績等）や集団の遺伝的構成などを調査し、系統豚「ローズL-3」及び「ローズD-1」を維持する。また、育成豚や精液を希望する養豚農家に配布する。</p> <p>① 系統集団維持飼養頭数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>L-3</th> <th>D-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種雄豚</td> <td>7頭</td> <td>24頭</td> </tr> <tr> <td>種雌豚</td> <td>40頭</td> <td>50頭</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 養豚農家への配布予定頭数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>L-3</th> <th>D-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>育成豚</td> <td>120頭</td> <td>120頭</td> </tr> <tr> <td>精液</td> <td>170本</td> <td>3,000本</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 調査項目                      ①繁殖成績                      一腹平均ほ乳開始頭数、3週齢時育成率等                      ②産肉能力等                      一日平均増体重、背脂肪厚、ロース断面積、筋肉内脂肪含量等                      ③集団の遺伝構成                      平均血縁係数、平均近交係数、遺伝的寄与率変動係数等</p>				L-3	D-1	種雄豚	7頭	24頭	種雌豚	40頭	50頭		L-3	D-1	育成豚	120頭	120頭	精液	170本	3,000本
	L-3	D-1																			
種雄豚	7頭	24頭																			
種雌豚	40頭	50頭																			
	L-3	D-1																			
育成豚	120頭	120頭																			
精液	170本	3,000本																			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p>平成30年度 34,595千円                      令和元年度 32,668千円                      令和2年度 31,566千円                      令和3年度 31,017千円</p>																					

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	発酵魚粉給与による効率的な豚肉生産技術の確立試験研究事業	新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 国補	県単																								
試験期間	平成30～令和4年度																												
予算額	3,138千円																												
摘 要	特別電源所在県科学技術振興事業 共同研究：茨城大学																												
<b>1 試験の目的</b> アシドロ菌®によって発酵処理された魚粉（発酵魚粉）をブタに給与することで、発育関連遺伝子の発現や発育等に及ぼす効果等を調査し、飼料効率の向上及び発育の均一化等に有効な発酵魚粉の給与方法の確立を目指す。																													
<b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 発育関連遺伝子の発現及び発育等に及ぼす効果の研究</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 発酵魚粉が肉質等に及ぼす効果の研究</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ウ 発酵魚粉給与技術の確立</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>						試験項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	ア 発育関連遺伝子の発現及び発育等に及ぼす効果の研究	○	○	○	○	○	イ 発酵魚粉が肉質等に及ぼす効果の研究	○	○	○	○	○	ウ 発酵魚粉給与技術の確立		○	○	○	○
試験項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度																								
ア 発育関連遺伝子の発現及び発育等に及ぼす効果の研究	○	○	○	○	○																								
イ 発酵魚粉が肉質等に及ぼす効果の研究	○	○	○	○	○																								
ウ 発酵魚粉給与技術の確立		○	○	○	○																								
(2) 試験計画 ア 発育関連遺伝子の発現及び発育等に及ぼす効果の研究 三元豚（LWD種）去勢豚 10頭（試験区 5頭、対照区 5頭） イ 発酵魚粉が肉質等に及ぼす効果の研究 試験豚よりサンプリングした肉を使用した調査 ウ 発酵魚粉給与技術の確立 効率的な発酵魚粉給与についての検討																													
(3) 調査項目 ア 発育関連遺伝子の発現及び発育等に及ぼす効果の研究 発育成績（1日増体量、上物率等）、DNA解析（盲腸内容物）、遺伝子発現動態 イ 発酵魚粉が肉質等に及ぼす効果の研究 肉質成績（水分含量、保水性、クッキングロス、脂肪融点等） ウ 発酵魚粉給与技術の確立 5年間の試験結果から考えられる効率的な発酵魚粉給与技術を検討																													
<過去の予算額> 平成30年度 4,700千円 平成31年度 4,500千円 令和2年度 4,002千円 令和3年度 3,293千円																													

# 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	デュロック種系統豚ローズ D-1 の肉質改善試験	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>																		
試験期間	平成31年度～令和5年度																				
予 算 額	8,701千円																				
摘 要	<p><b>1 試験の目的</b> 「常陸の輝き」などの県内ブランド豚肉をはじめとする優良な肉質を有する豚肉の生産促進と安定的生産のため、遺伝子解析を用いて筋肉内脂肪含量(IMF)に関連する遺伝領域を特定し、デュロック種系統豚「ローズ D-1」の IMF について高位平準化を図る。</p> <p><b>2 試験の内容</b> (1) 全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア ローズ D-1 の IMF に係る遺伝領域の探査</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>イ 維持のための選抜・交配</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 試験計画 ア ローズ D-1 の IMF に係る遺伝領域の探査 ・ローズ D-1 産子(種雌豚各腹♀2頭)の検定、IMF 調査、遺伝子解析 ・ローズ D-1 種豚(♂21頭、♀49頭)の遺伝子解析 イ 維持のための選抜・交配 調査結果を活用したローズ D-1 後継豚の選抜および交配</p> <p>(3) 調査項目 ア ローズ D-1 の IMF に係る遺伝領域の探査 ・ローズ D-1 産子 30-105kg における 1 日平均増体重(kg/日)、105 kg 時の体尺値、ロース芯の筋肉内脂肪含量(IMF)の分析 ・種豚および産子の毛根をサンプリングし、遺伝子(SNP)解析を実施 ・上記の結果をもとにローズ D-1 における IMF に係る遺伝領域の探査・特定 イ 維持のための選抜・交配 ・IMF 関連遺伝領域及び IMF に基づいた豚の選抜と交配</p> <hr/> <p>&lt;過去の予算額&gt; 平成31年度 4,640千円 令和2年度 2,392千円 令和3年度 7,361千円</p>				H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	ア ローズ D-1 の IMF に係る遺伝領域の探査	○	○	○	○	○	イ 維持のための選抜・交配			○	○	○
	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																
ア ローズ D-1 の IMF に係る遺伝領域の探査	○	○	○	○	○																
イ 維持のための選抜・交配			○	○	○																

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター養豚研究所（飼養技術研究室）

課 題 名	種雄豚への5-アミノレブリン酸給与による精子活力向上試験	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	国補 <input type="checkbox"/> 県単 <input checked="" type="checkbox"/>	
試験期間	平成31年度～令和4年度			
予 算 額	871千円			
摘 要	共同研究：日本大学生物資源科学部 ネオファーマジャパン株式会社			
<b>1 試験の目的</b>				
<p>養豚の生産現場において、暑熱による精液性状の悪化が受胎率低下の原因として大きな問題となっている。そこで精子運動率に関わるミトコンドリアを活性化する作用を有するアミノ酸（5-アミノレブリン酸）を給与し、精液性状の改善効果を検証する。</p>				
<b>2 試験の内容</b>				
(1) 全体計画				
	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
ア 精液性状改善効果	○	○	○	○
イ 活用方法の検証				○
(2) 試験計画				
ア 精液性状改善効果	デュロック種雄豚 10頭（投与区5頭 対照区5頭）			
イ 活用方法の検証	5-ALA 投与による効果を検証する。			
(3) 調査項目				
ア 精液性状改善効果	CASA（精子運動解析システム）を活用して運動精子数、精子濃度、直線・曲線速度から精子活力を測定。			
イ 活用方法の検証	投与量の変化による5-ALA作用を調査し、普及を目指す。			
.....				
<過去の予算額>				
令和元年度	1,097千円			
令和2年度	951千円			
令和3年度	1,001千円			

## 令和4年度事業計画の概要

畜産センター（飼養技術研究室・生産技術研究室・養豚研究所）

課題名	国補機器整備費	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 国補 県単
試験期間	令和4年度		
予算額	19,986千円		
摘要	特別電源所在県科学技術振興事業		
<p><b>1 事業の目的</b> 試験研究テーマに対応するため、分析機器の保守・点検を行う。</p>			
<p><b>2 事業の内容</b></p> <p>(1) 補助率 10/10</p> <p>(2) 整備内容</p> <p style="padding-left: 20px;">(修繕料) 精密分析機器保守点検</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 畜産センター <span style="float: right;">5,460千円</span> 匂い嗅ぎ装置付ガスクロマトグラフィ質量分析計 イオンクロマトグラフィシステム イオウ系化合物・低級脂肪酸分析装置他4件</p> <p style="padding-left: 20px;">(備品購入費)</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 畜産センター <span style="float: right;">14,526千円</span> 枝肉撮影装置一式 ガスクロマトグラフ 超音波画像診断 OPU プローブデバイス他3件</p>			
<p>&lt;過去の予算額&gt;</p> <p style="padding-left: 20px;">令和元年度 37,403千円 令和2年度 32,345千円 令和3年度 37,275千円</p>			